

決め手は、
青森県産。



青森県の畜産

令和7年3月



写真 令和6年度青森県乳用牛共進会

目次

■ 第1章 農業の概要

- 1 青森県の自然……………1
- 2 農業産出額……………2

■ 第2章 畜産の概要

- 1 畜産産出額……………3
- 2 主要家畜の頭羽数……………3

■ 第3章 家畜飼養動向

- 1 乳用牛……………4
- 2 肉用牛……………6
- 3 豚……………8
- 4 採卵鶏……………10
- 5 ブロイラー……………11
- 6 その他……………12

■ 第4章 畜産物の流通と価格

- 1 牛乳……………13
- 2 肉用牛……………15
- 3 豚……………17
- 4 鶏卵……………19
- 5 ブロイラー……………21
- 6 畜産物支出金額、購入数量……………22

■ 第5章 畜産物の生産費と収益性

- 1 生乳……………23
- 2 肉用牛……………24
- 3 豚……………26

■ 第6章 草地と飼料

- 1 自給飼料の生産……………27
- 2 草地面積……………28
- 3 配合飼料の生産……………29
- 4 青森県飼料作物奨励品種……………30

■ 第7章 家畜衛生

- 1 家畜防疫事業の推移……………31
- 2 監視伝染病発生状況……………32

■ 第8章 環境保全

- 環境汚染発生状況……………33

■ 第9章 参考資料

- 1 青森県酪農・肉用牛生産近代化計画の目標……………34
- 2 青森県養豚・養鶏振興プランの目標……………35
- 3 畜産行政組織の概要……………37
- 4 試験研究機関……………38
- 5 行政区域・各機関所在地……………38
- 6 畜産関係機関・団体……………39
- 7 畜産関係施設……………40
- 8 県内の特徴的な動き……………41
- 9 県基幹種雄牛……………43

第1章 農業の概要

1 青森県の自然

〔位 置〕

本県は、本州の最北端に位置し、北は津軽海峡を隔てて北海道と相対し、東は太平洋、西は日本海に囲まれ、南は秋田・岩手両県に接している。

青森市から東京までは、国道4号では約740km、鉄道距離（東北新幹線）では約710kmで、時間距離は自動車では東北縦貫自動車道を利用すると約8時間、鉄道では最短で約3時間、飛行機では約1時間15分となっている。

〔面 積〕

本県の面積は、全国8位の約9,646km²で全国の約3%を占めているが、人口密度は約128.3人/km²で全国41位となっており、1人当たりの面積が広く、豊かな自然に恵まれている。

〔地 形〕

県の中央部の奥羽山脈を境として、日本海側の津軽地方では、奥羽山脈の延長にある山地と出羽山地の延長にある山地によって囲まれた広大な沖積平野である、肥沃な津軽平野が岩木川流域に広がっている。

また、奥羽山脈の北端には、青森市を中心とした青森平野が広がっている。

一方、太平洋側の県南地方では、北上山地から続く火山灰土に覆われた台地や段丘が広く分布し、下北半島の首部から十和田市・八戸市に及ぶ地域には丘陵地が形成されている。

西の津軽半島と東の下北半島はそれぞれ北に延び、両半島の真ん中に陸奥湾が存在する。

〔気 候〕

夏が短く冬が長い冷涼な気候で、四季がはっきりしている。夏季は、津軽地方は比較的気温が高く温暖な日が多いが、県南地方では春の終わりから夏にかけてヤマセ（偏東風）が吹き、低温の日が多い。

冬季は、西ないし北西の季節風が多くなり、津軽地方では雪の日が多く多雪となるが、県南地方は冷え込みが厳しいものの、晴天の日が多く雪は少ない。

青 森 の 地 質 区 分



本県の面積 9,645.1km² (全国8位)

本県の海岸線総延長 796.5km (全国13位)

資料:

令和2年国勢調査人口等基本集計（総務省）

令和5年全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院）

平成28年海岸統計（国土交通省）

2 農業産出額

○農業産出額とは

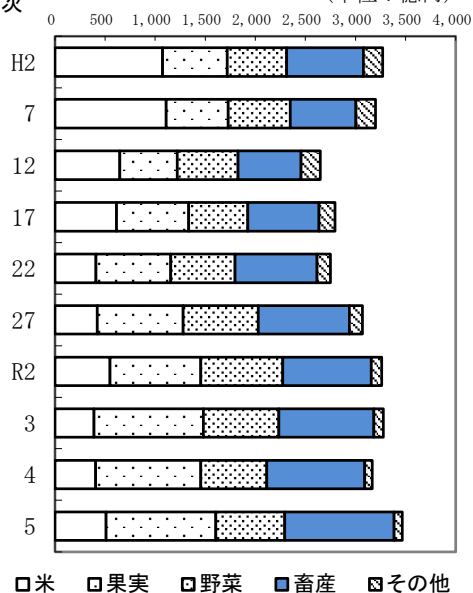
年内に生産された農産物総量（自家消費分も含む）から、種子及び飼料などの中間生産物を控除した各農産物数量に、農家の販売価格（農家受取価格）を乗じて算出したものである。

（単位：億円）

年	合計	米	果実	野菜	畜産	その他
H2	3,270	1,074	647	593	766	190
7	3,200	1,109	621	619	656	195
12	2,649	647	573	608	628	193
17	2,797	613	722	589	710	163
22	2,751	410	746	643	818	134
27	3,068	422	857	751	910	128
R2	3,262	548	906	821	883	104
3	3,277	389	1,094	753	947	94
4	3,168	405	1,051	657	979	76
5	3,466	511	1,096	687	1,090	82

年次

（単位：億円）



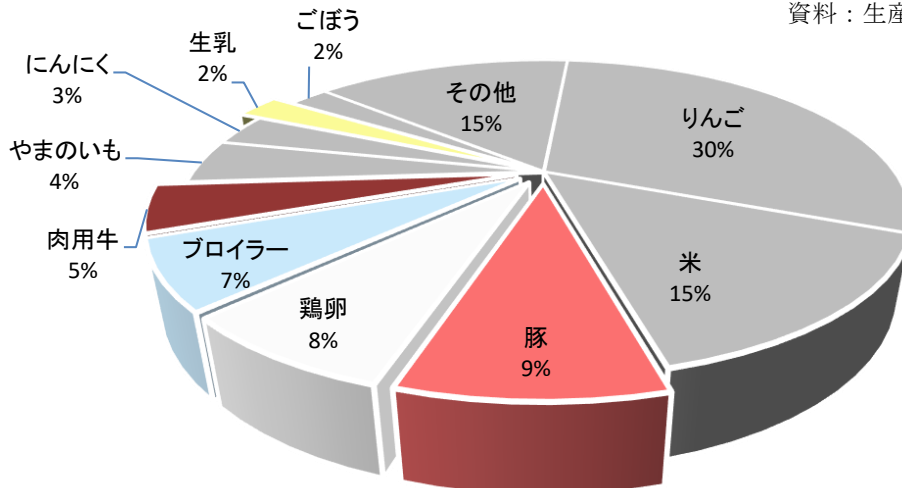
資料：生産農業所得統計

県内産出額上位10品目（令和5年）

（単位：億円）

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
品目	りんご	米	豚	鶏卵	ブロイラー	肉用牛	やまのいも	にんにく	生乳	ごぼう
産出額	1033	511	307	264	233	165	158	116	87	78

資料：生産農業所得統計



第2章 畜産の概要

1 畜産産出額

令和5年の畜産産出額は、前年に比べて11.3%増の1,090億円となっており、畜種別では鶏515億円（対前年比10.5%増）、豚307億円（対前年比27.9%増）、肉用牛165億円（対前年比3.5%減）、乳用牛91億円（対前年比2.3%増）となっている。

（単位：億円）

年次	合計	乳用牛	生乳	肉用牛	豚	鶏	鶏卵	ブロイラー	その他
S55	586	107	80	52	186	220	174	—	24
60	623	105	85	67	194	239	156	—	19
H2	766	103	83	97	255	283	142	—	28
7	649	97	78	72	216	257	131	—	6
12	627	78	71	75	185	282	137	—	8
17	710	73	68	81	223	324	147	153	10
22	818	72	69	120	258	357	169	182	12
27	910	78	69	146	258	412	195	210	16
R1	885	91	78	162	221	399	178	204	13
2	883	93	83	144	224	411	179	217	13
3	947	88	78	161	221	464	223	227	13
4	979	89	83	171	240	466	234	217	12
5	1,090	91	87	165	307	515	264	233	11

※ 平成12年以前は、ブロイラーの産出額の調査は行っていない。

資料：生産農業所得統計

2 主要家畜の頭羽数

（1）飼養戸数、頭羽数（乳用牛・肉用牛：令和6年2月1日現在）

（単位：戸、頭、千羽）

乳用牛				肉用牛				豚		採卵鶏		ブロイラー	
飼養戸数	飼養頭数			飼養戸数	飼養頭数			飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養羽数 成鶏めす	飼養戸数	飼養羽数
	合計	2歳以上	2歳未満		合計	肉用種	乳用種						
136	11,100	8,540	2,610	688	55,500	32,900	22,600	48	334,800	24	4,902	59	7,639

資料：畜産統計

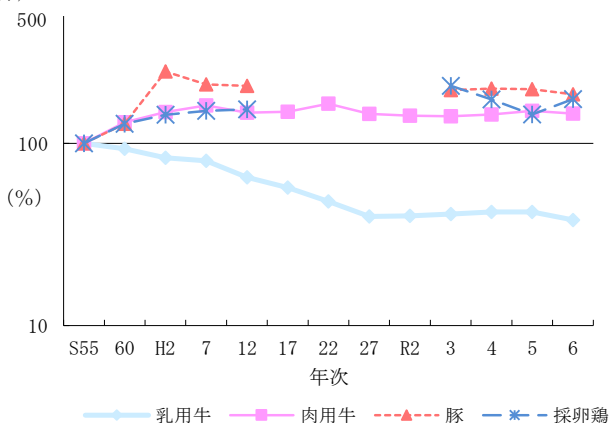
（2）家畜飼養頭羽数の対昭和55年比の推移

現在の家畜飼養頭羽数を昭和55年と比較すると、豚（186%）、肉用牛（146%）、採卵鶏（175%）は伸びており、乳用牛（38%）は減少している。

（単位：%）

（対数表示）

年次	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏
S55	100	100	100	100
60	93	130	128	128
H2	83	148	248	144
7	80	161	211	151
12	65	147	207	154
17	57	149	/	/
22	48	165	/	/
27	40	145	/	/
R2	40	142	/	/
3	41	141	196	207
4	42	144	200	174
5	42	151	198	144
6	38	146	186	175



資料：畜産統計・食鳥流通統計

※平成17年、22年、27年、令和2年は農業センサス実施年のため豚及び採卵鶏の調査データなし

第3章 家畜飼養動向

1 乳 用 牛



(1) 飼養戸数及び飼養頭数

飼養戸数は年々減少し、令和6年は前年より11戸減の136戸となった。
飼養頭数は11,100頭で、前年に比べて1,300頭減少している。

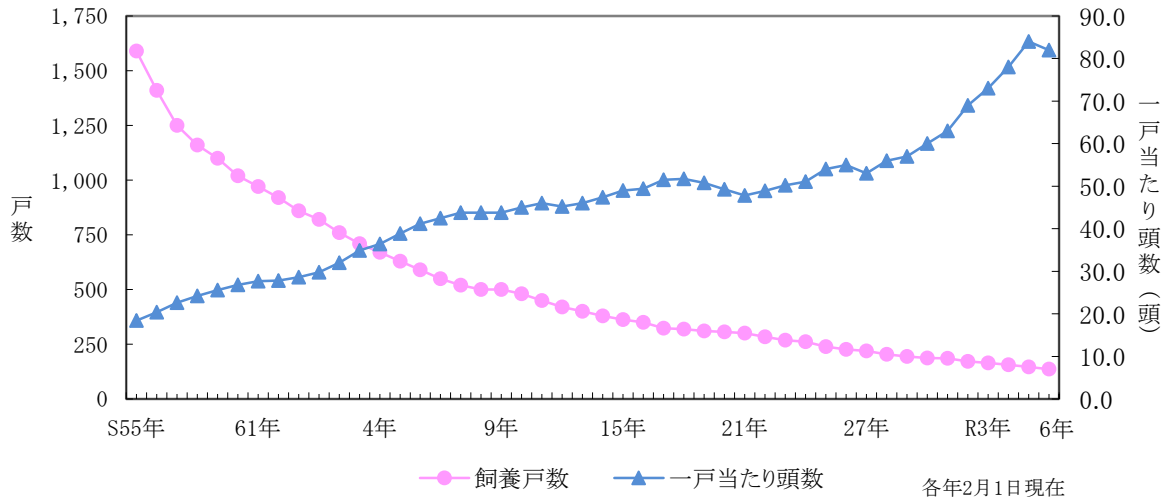
(単位:戸、頭)

区 分		飼養戸数	飼 養 頭 数 (め す)							一 戸 当 たり 頭 数
			合計	2 歳 以 上					2 歳未満	
				計	経 産 牛			未經産牛		
					小計	搾乳牛	乾乳牛			
青森県	S55. 2. 1	1, 590	29, 200	21, 100	18, 300	14, 820	3, 480	2, 810	8, 090	18
	60. 2. 1	1, 020	27, 300	19, 510	17, 200	14, 000	3, 200	2, 310	7, 820	27
	H2. 2. 1	760	24, 300	16, 300	15, 200	12, 900	2, 250	1, 120	8, 040	32
	7. 2. 1	550	23, 400	16, 200	14, 700	12, 600	2, 060	1, 490	7, 210	43
	12. 2. 1	420	19, 000	13, 900	12, 700	11, 000	1, 700	1, 200	5, 170	45
	17. 2. 1	324	16, 700	11, 500	10, 500	8, 970	1, 540	940	5, 250	52
	22. 2. 1	284	13, 900	9, 920	9, 690	8, 390	1, 300	230	3, 940	49
	27. 2. 1	219	11, 600	8, 120	7, 880	6, 930	950	230	3, 520	53
30. 2. 1	青森	187	11, 300	8, 270	8, 050	7, 000	1, 050	230	3, 040	60
	全国	15, 700	1, 328, 000	906, 900	847, 200	731, 100	116, 100	59, 700	421, 100	85
31. 2. 1	青森	186	11, 700	8, 520	8, 290	7, 210	1, 080	240	3, 170	63
	全国	15, 000	1, 332, 000	900, 500	839, 200	729, 500	109, 700	61, 300	431, 100	89
R2. 2. 1	青森	172	11, 800	9, 180	8, 540	7, 280	1, 270	630	2, 650	69
	全国	14, 400	1, 352, 000	900, 300	838, 900	715, 400	123, 500	61, 400	452, 000	94
R3. 2. 1	青森	165(20)	12, 000(17)	9, 300	8, 680	7, 460	1, 220	620	2, 670	73(17)
	全国	13, 900	1, 356, 000	910, 000	849, 300	726, 000	123, 300	60, 700	446, 400	98
R4. 2. 1	青森	156(19)	12, 200(17)	9, 500	8, 830	7, 570	1, 250	670	2, 680	78(17)
	全国	13, 300	1, 371, 000	924, 000	861, 700	736, 500	125, 200	62, 300	447, 200	103
R5. 2. 1	青森	147(19)	12, 400(16)	9, 410	8, 830	7, 580	1, 250	570	3, 030	84(13)
	全国	12, 600	1, 356, 000	896, 400	836, 600	714, 500	122, 100	59, 800	459, 300	108
R6. 2. 1	青森	136(18)	11, 100(17)	8, 540	7, 950	6, 810	1, 140	590	2, 610	82(20)
	全国	11, 900	1, 313, 000	889, 600	826, 200	704, 800	121, 400	63, 400	423, 000	110

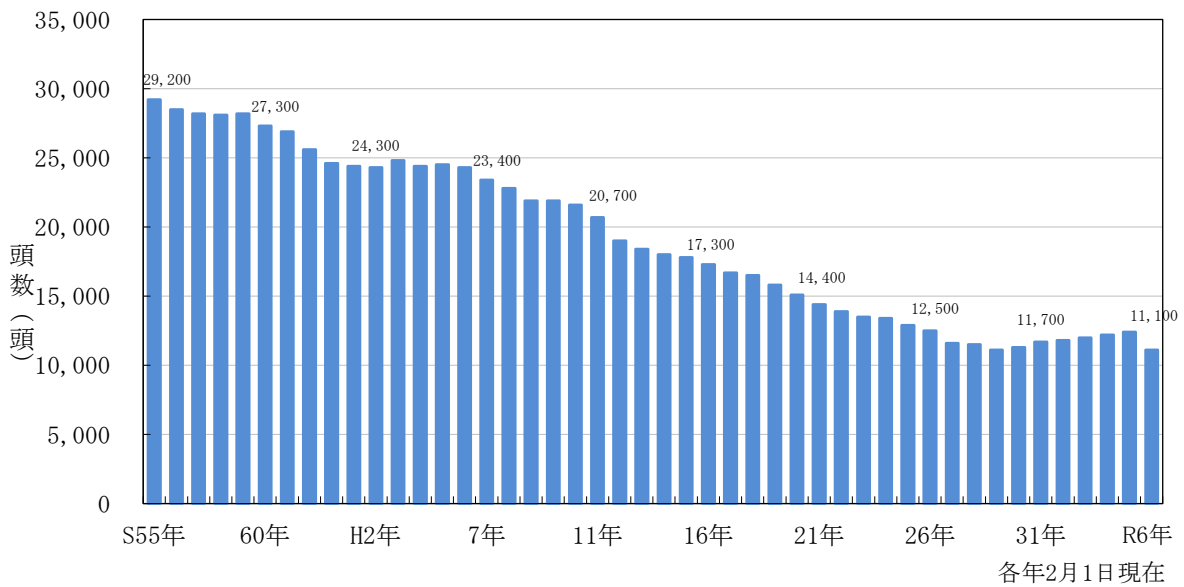
※()は全国順位。数値未公表の都道府県を除いたもの。

資料：畜産統計

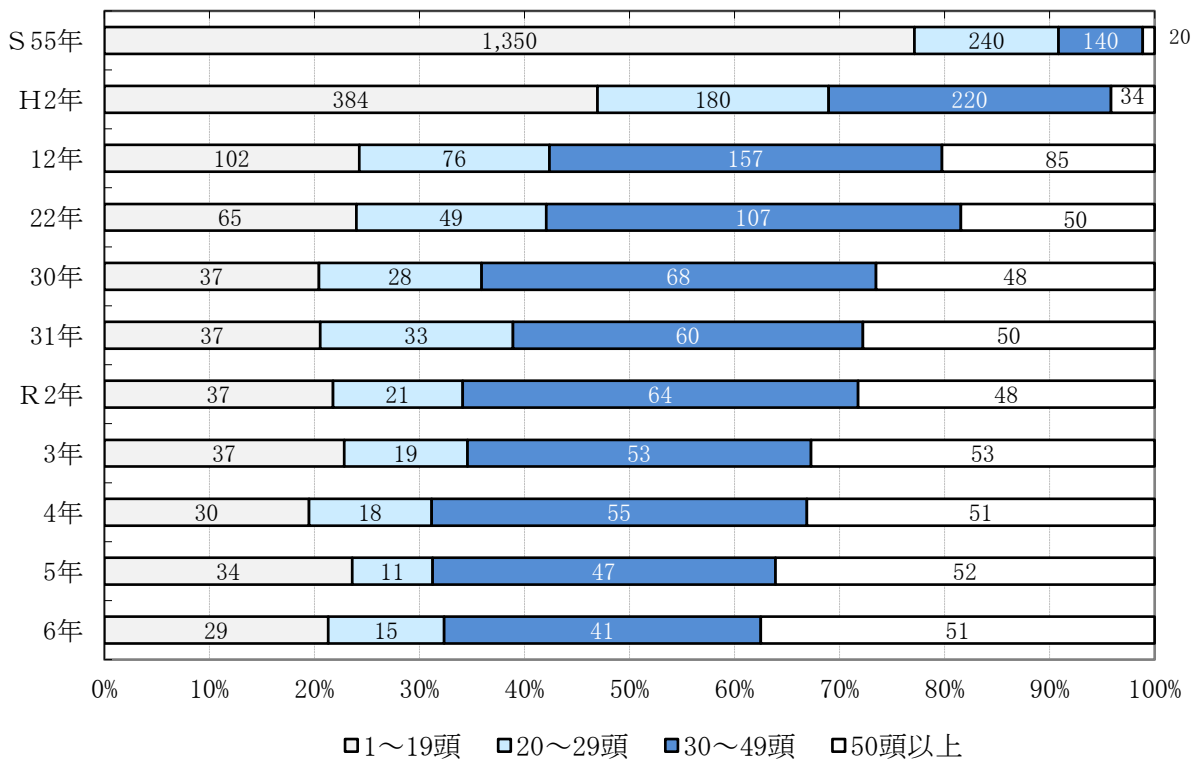
①飼養戸数及び一戸当たりの飼養頭数の推移



②飼養頭数の推移



(2) 頭数規模別飼養戸数とその割合(成畜)



資料：畜産統計

2 肉 用 牛



(1) 飼養戸数及び飼養頭数

令和6年の飼養戸数は前年より38戸減少し、688戸となった。飼養頭数は55,500頭で、前年に比べて2.8%減となり、肉用種繁殖めすは、前年に比べ2.2%減の13,500頭となった。

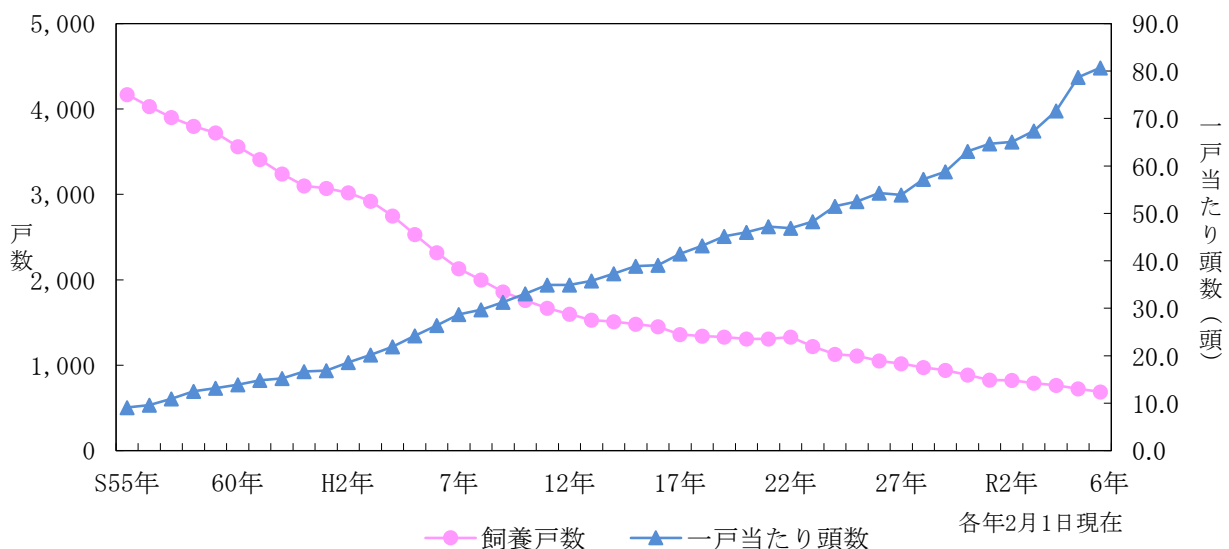
(単位:戸、頭)

区 分		飼養 戸数	飼 養 頭 数					一 戸 当 たり 頭 数
			計	肉用種めす		肉用種おす	乳用種	
					うち繁殖めす			
青森県	S55. 2. 1	4, 170	37, 910	4, 930		8, 740	10, 430	9
	60. 2. 1	3, 560	49, 400	5, 800		9, 460	19, 500	14
	H 2. 2. 1	3, 020	56, 200	17, 600		8, 520	30, 100	19
	7. 2. 1	2, 130	61, 200	17, 800		13, 700	29, 600	29
	12. 2. 1	1, 600	55, 800	16, 700	10, 900	9, 700	29, 400	35
	17. 2. 1	1, 360	56, 500	16, 200	10, 400	9, 110	31, 200	42
	22. 2. 1	1, 330	62, 400	19, 500	14, 200	9, 250	33, 600	47
	27. 2. 1	1, 020	55, 000	17, 300	12, 000	7, 320	30, 500	54
31. 2. 1	青森	827	53, 500	19, 000	12, 500	9, 010	25, 400	65
	全国	46, 300	2, 503, 000	1, 114, 000	625, 900	620, 300	769, 600	54
R2. 2. 1	青森	824	53, 700	19, 300	12, 900	9, 620	24, 700	65
	全国	43, 900	2, 555, 000	1, 138, 000	622, 000	654, 200	763, 400	58
R3. 2. 1	青森	792(14)	53, 400(12)	19, 500	13, 200	10, 400	23, 500	67(24)
	全国	42, 100	2, 604, 000	1, 162, 000	632, 800	667, 200	775, 200	62
R4. 2. 1	青森	763(13)	54, 600(12)	20, 000	13, 600	10, 900	23, 800	72(25)
	全国	40, 400	2, 614, 000	1, 158, 000	636, 800	653, 600	802, 200	65
R5. 2. 1	青森	726(13)	57, 100(12)	20, 500	13, 800	11, 600	25, 100	79(24)
	全国	38, 600	2, 687, 000	1, 195, 000	577, 500	686, 800	804, 400	70
R6. 2. 1	青森	688(13)	55, 500(12)	21, 000	13, 500	11, 900	22, 600	81(25)
	全国	36, 500	2, 672, 000	1, 201, 000	640, 400	696, 700	774, 900	73

※ () は全国順位。数値未公表の都道府県を除いたもの。

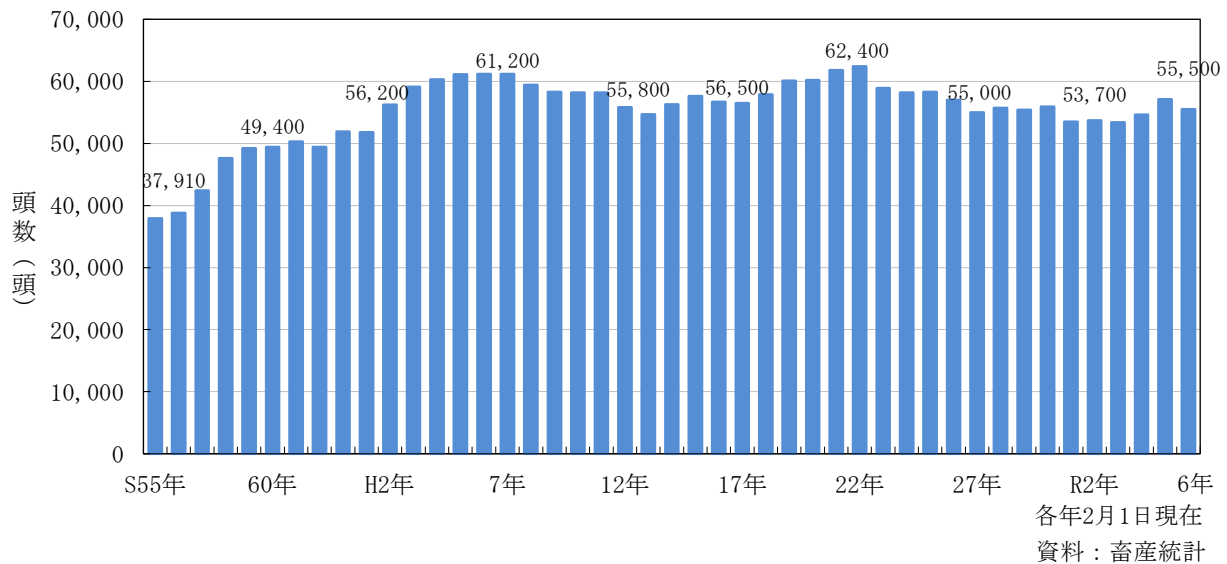
資料：畜産統計

①飼養戸数及び一戸当たりの飼養頭数の推移

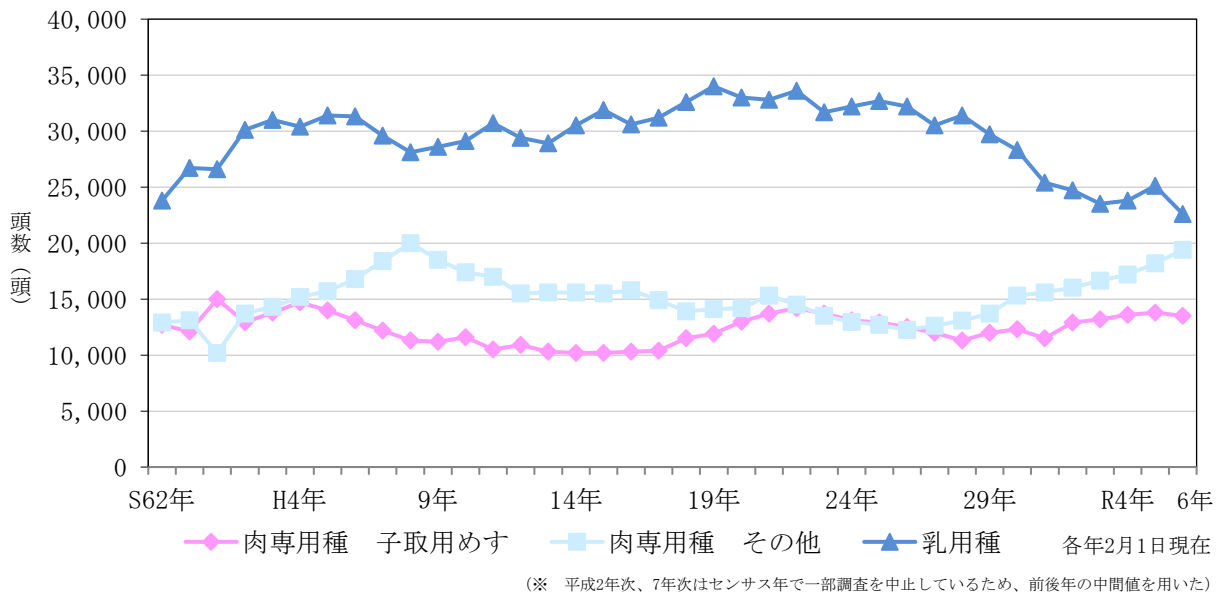


資料：畜産統計

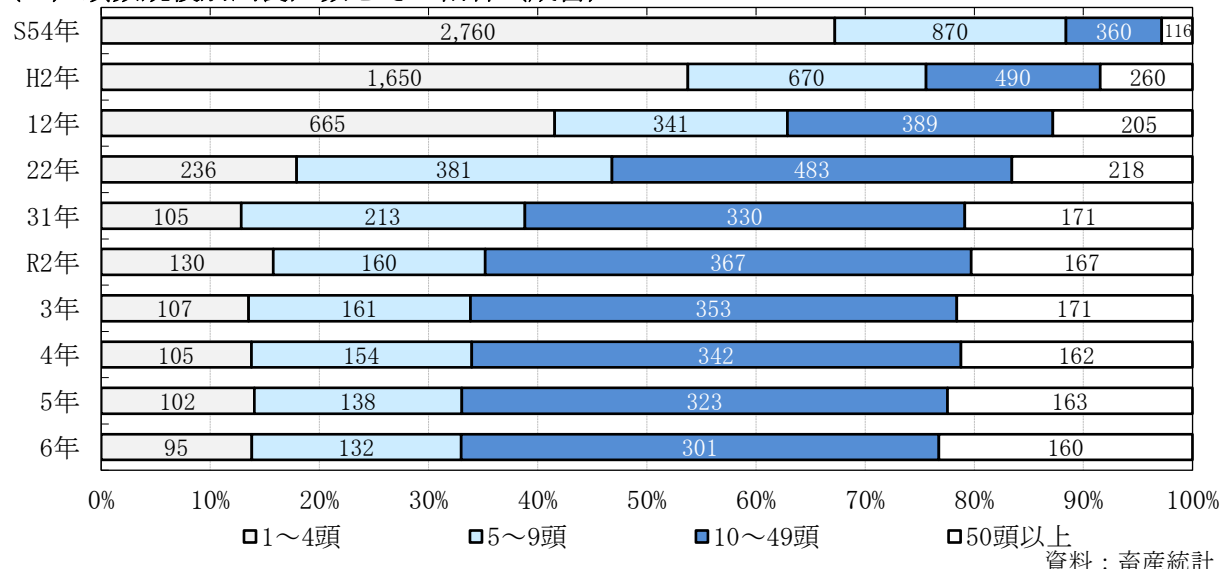
②飼養頭数の推移



③品種別飼養頭数の推移



(2) 頭数規模別飼養戸数とその割合（成畜）



3 豚



(1) 飼養戸数及び飼養頭数

飼養戸数は減少が続いており、令和6年は前年より4戸減少し48戸となった。飼養頭数は、前年に比べほぼ横ばいの334,800頭となった。

また、一戸当たりの飼養頭数は年々増加傾向で推移し6,975頭で、全国2位となっている。

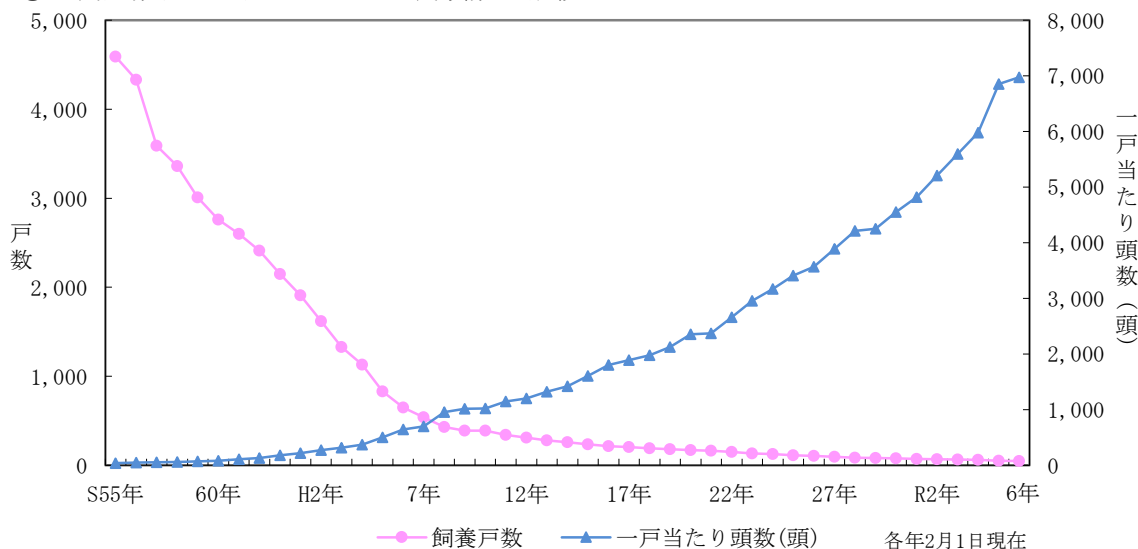
(単位:戸、頭)

区 分		飼 養 戸 数		飼 養 頭 数		一戸当たり 頭数
			子取り用めす豚		子取り用めす豚	
青森県	S55.2.1	4,590	3,610	179,610	23,760	39
	60.2.1	2,760	2,540	229,600	29,800	83
	H 2.2.1	1,620	1,240	445,100	43,500	275
	7.2.1	540	480	378,700	39,600	701
	12.2.1	310	290	372,000	36,200	1,200
	16.2.1	216	190	389,300	35,600	1,802
	21.2.1	163	142	386,600	34,000	2,372
30.2.1	青森	79	55	359,500	31,500	4,551
	全国	4,470	3,640	9,189,000	823,700	2,056
31.2.1	青森	73	54	351,800	32,900	4,819
	全国	4,320	3,460	9,156,000	853,100	2,119
R3.2.1	青森	63(20)	46	352,700(9)	29,100	5,598(3)
	全国	3,850	3,040	9,290,000	823,200	2,413
R4.2.1	青森	60(20)	41	358,600(8)	28,500	5,977(2)
	全国	3,590	2,750	8,949,000	789,100	2,493
R5.2.1	青森	52(20)	37	356,300(8)	29,500	6,852(2)
	全国	3,370	2,640	8,956,000	791,800	2,658
R6.2.1	青森	48(21)	34	334,800(9)	23,400	6,975(2)
	全国	3,130	2,390	8,798,000	758,300	2,811

※平成17年、22年、27年、令和2年は農業センサス実施年のため調査を中止している。資料：畜産統計

※ () は全国順位。数値未公表の都道府県を除いたもの。

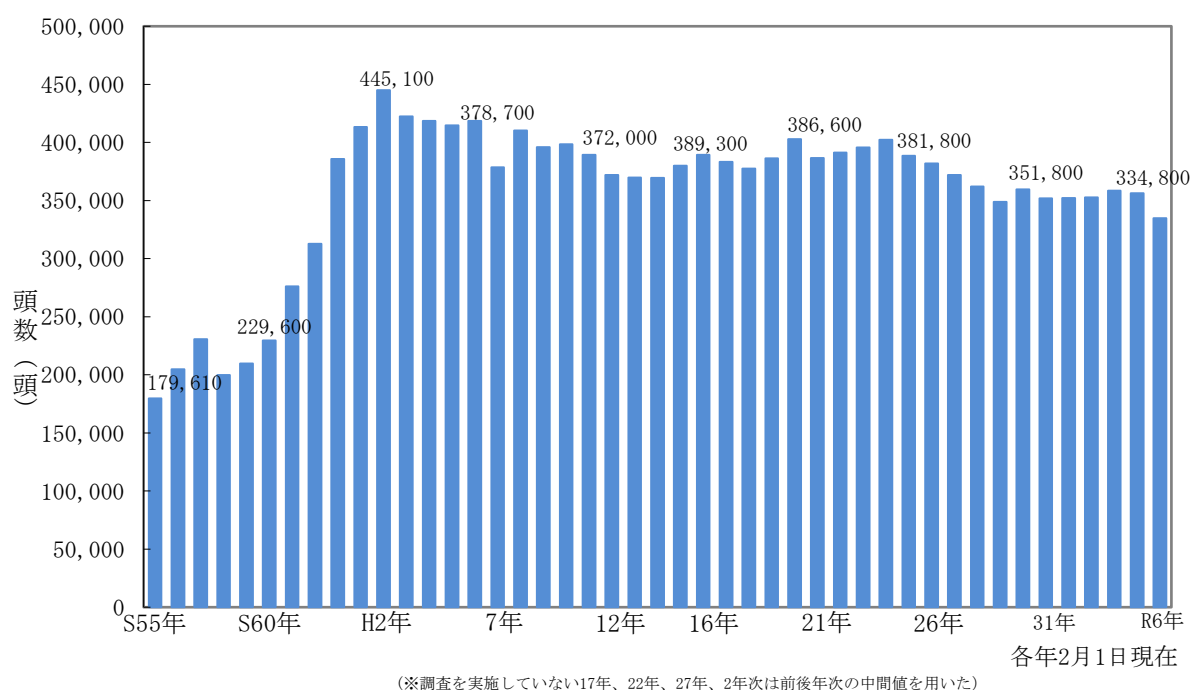
①飼養戸数及び一戸当たりの飼養頭数の推移



(※ 調査を実施していない17年、22年、27年、2年次は前後年の中間値を用いた)

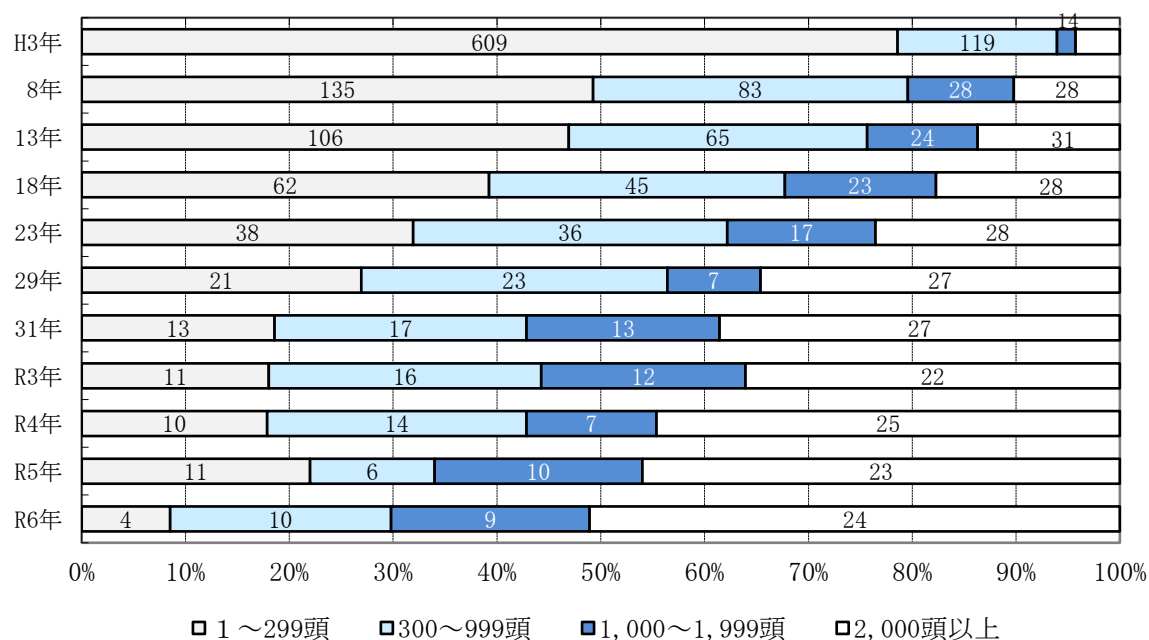
資料：畜産統計

②飼養頭数の推移



資料：畜産統計

(2) 頭数規模別飼養戸数とその割合 (肥育豚)



資料：畜産統計

4 採 卵 鶏



(1) 飼養戸数及び飼養羽数

飼養戸数は、ここ数年横ばいで推移しており、令和6年は1戸増加し24戸であった。飼養羽数は、前年に比べて21.3%増の6,540千羽となった。また、一戸当たりの飼養羽数は、全国平均の約2.6倍にあたる204千羽で全国1位の規模となっている。

(単位:戸、千羽)

区 分		飼養戸数	飼養羽数（採卵鶏）			一戸あたり 成鶏めす羽数
			計	成鶏めす	ひな	
R4. 2. 1	青森	25 (27)	6, 497 (9)	4, 650	1, 847	186 (1)
	全国	1, 880	180, 096	137, 291	42, 805	76
R5. 2. 1	青森	23 (29)	5, 393 (15)	3, 635	1, 758	158 (2)
	全国	1, 760	169, 810	128, 579	41, 231	76
R6. 2. 1	青森	24 (27)	6, 540 (8)	4, 902	1, 638	204 (1)
	全国	1, 700	170, 776	129, 729	38, 870	79

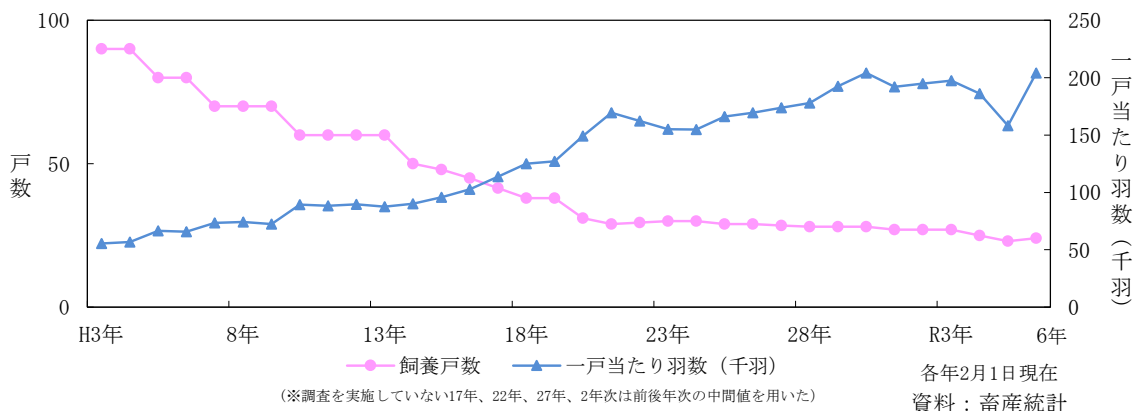
※平成17年、22年、27年、令和2年は農業センサス実施年のため調査を中止している。

資料：畜産統計

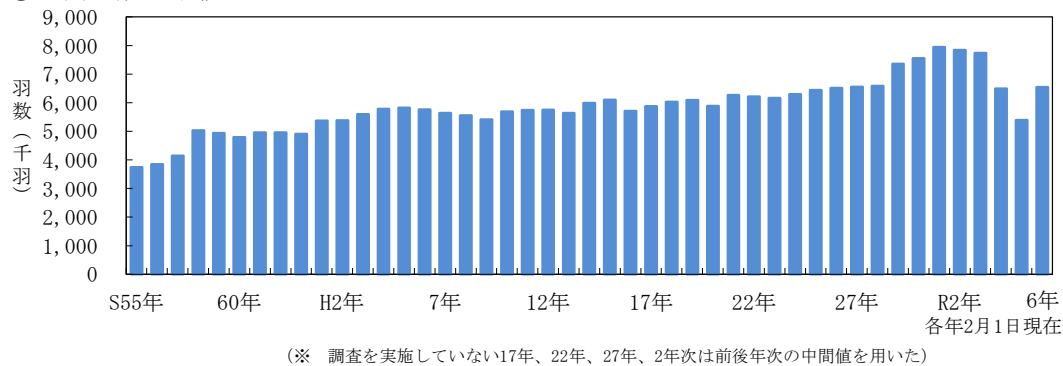
※飼養対象は、平成2年まで成鶏300羽未満を含み、平成3年から成鶏300羽以上、平成10年から成鶏1,000羽以上。

※()は全国順位。数値未公表の都道府県を除いたもの。

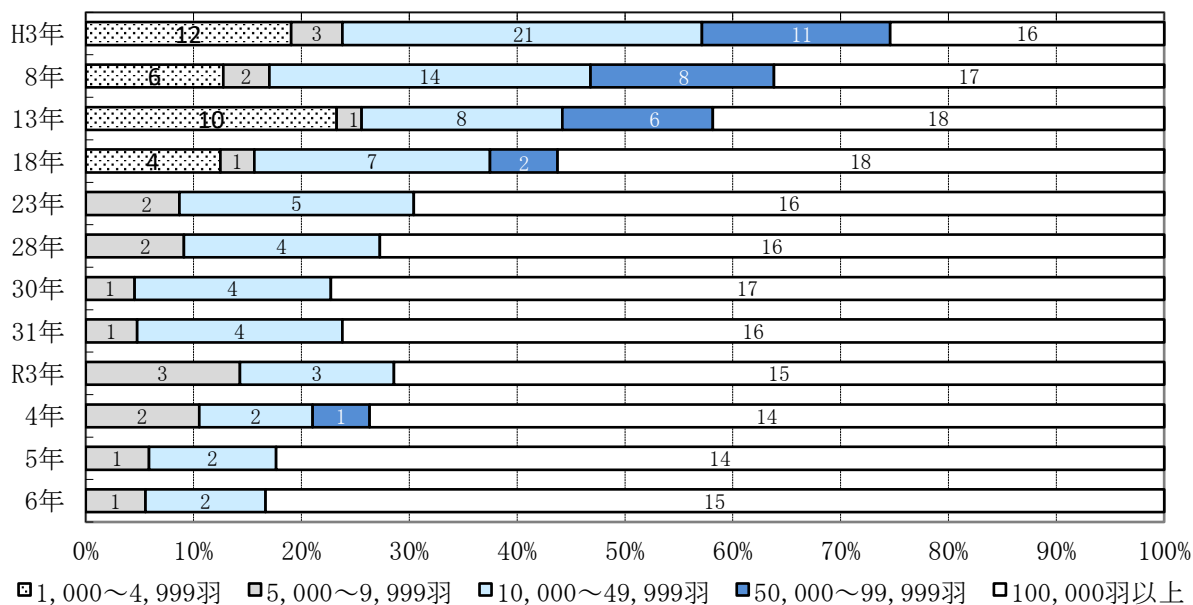
①飼養戸数及び一戸当たりの飼養羽数の推移



②飼養羽数の推移



(2) 羽数規模別飼養戸数とその割合（成鶏めす）



※令和4年から1,000～4,999羽と5,000～9,999羽が1,000～9,999羽に一本化された。

資料：畜産統計

5 ブロイラー



(1) 飼養戸数及び飼養羽数

令和6年の飼養戸数は59戸、飼養羽数は前年に比べて10.6%増の7,639千羽となった。一戸当たりの飼養羽数は全国平均の約1.8倍にあたる129.5千羽で全国4位の規模となっている。

単位：戸、千羽

区 分		S55年	60年	H2年	7年	12年	17年	21年	26年	31年	R5年	6年
青森県	飼養戸数	39	43	46	46	48	53	58	66	64	60 (7)	59 (6)
	飼養羽数	1,056	2,119	3,777	4,295	4,517	5,060	6,105	6,844	6,943	6,905 (4)	7,639 (4)
	一戸当たり 羽数	27.1	49.3	82.1	93.4	94.1	95.5	105.3	103.7	108.5	115.1 (5)	129.5 (4)
全 国	飼養戸数	—	7,025	5,529	3,853	3,084	2,654	2,392	2,380	2,250	2,100	2,050
	飼養羽数	—	150,215	150,445	119,682	108,786	102,520	107,141	135,747	138,228	141,463	144,859
	一戸当たり 羽数	—	21.4	27.2	31.1	35.3	38.6	44.8	57.0	61.4	67.4	70.7

※平成21年までは、食鳥流通統計として調査。

※平成25年からは、畜産統計として調査。年間出荷羽数3,000羽未満の飼養者を除く。

※（ ）は全国順位。数値未公表の都道府県を除いたもの。

※平成22年、27年、令和2年は農業センサス実施年のため調査を中止している。

6 その他

(1) 馬



①軽種馬

(単位:戸、頭)

区 分	S55年	60年	H2年	7年	12年	17年	22年	27年	R2年	4年	5年	6年
飼養戸数	272	199	165	146	102	73	53	46	36	33	30	32
飼養頭数	2,212	2,155	1,872	1,740	1,006	830	438	300	290	282	251	236

各年2月1日現在

資料: 県畜産課調査

②軽種馬以外

(単位:戸、頭)

区 分	S55年	60年	H2年	7年	12年	17年	22年	27年	R2年	4年	5年	6年
飼養戸数	359	435	280	320	277	228	136	118	116	105	99	86
飼養頭数	683	1,108	881	1,751	1,522	1,580	1,436	1,540	1,845	1,573	1,446	1,280

各年2月1日現在

資料: 県畜産課調査

(2) めん羊

※平成24年から調査方法が変更となっている



(単位:頭)

区 分	S55年	60年	H2年	6年	12年	17年	22年	27年	R2年	4年	5年	6年
飼養頭数	463	1,530	610	430	165	132	65	150	177	267	321	244

各年2月1日現在

資料: 県畜産課調査 (H6年以前は畜産統計)

(3) 山羊



(単位:頭)

区 分	S55年	60年	H2年	6年	12年	17年	22年	27年	R2年	4年	5年	6年
飼養頭数	391	180	110	80	85	73	89	140	106	99	77	98

各年2月1日現在

資料: 県畜産課調査 (H6年以前は畜産統計)

(4) 蜜蜂



(単位:戸、群)

区 分	S55年	60年	H2年	7年	12年	17年	22年	27年	R2年	4年	5年	6年
飼育戸数	169	160	118	96	92	75	76	103	123	124	117	117
飼育群数	7,779	7,610	5,553	5,160	5,630	6,065	5,677	5,960	6,057	5,578	4,396	2,298

各年1月1日現在

資料: 県畜産課調査

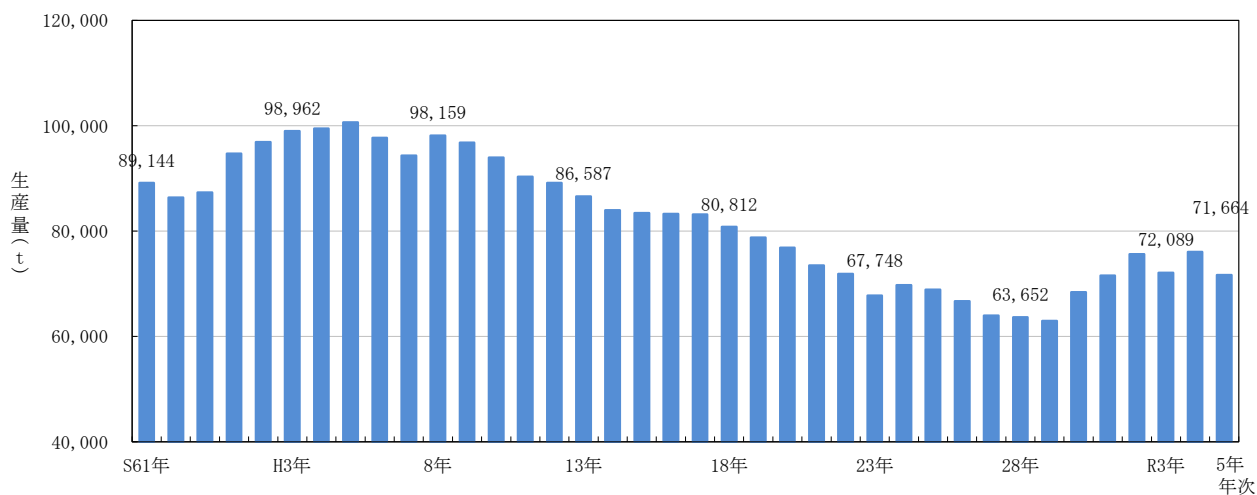
第4章 畜産物の流通と価格

1 牛 乳



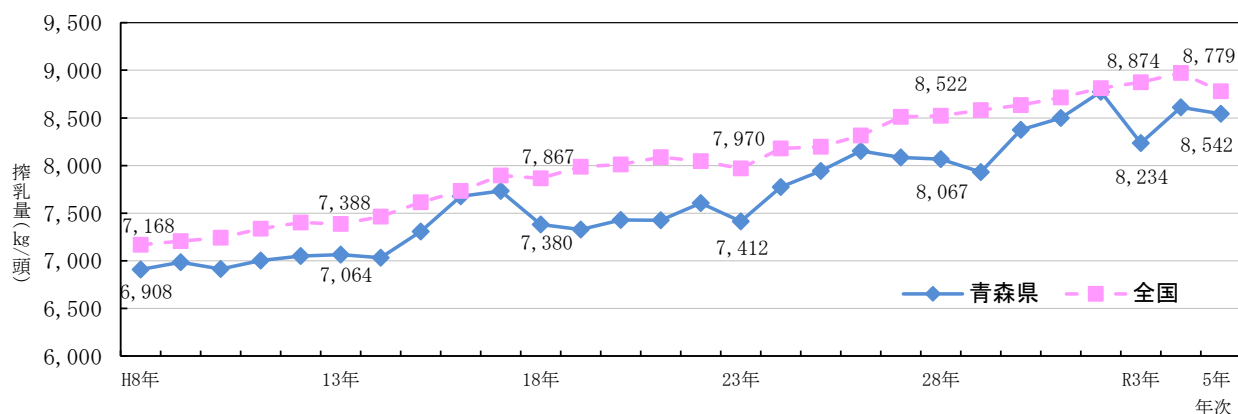
(1) 生乳生産量

令和5年の生乳生産量は71,664tで、前年に比べて4,382t（5.8%）減少している。



(2) 経産牛1頭当たり年間搾乳量

令和5年の経産牛1頭当たりの年間搾乳量は、8,542kg/頭となっている。



(3) 生乳の価格

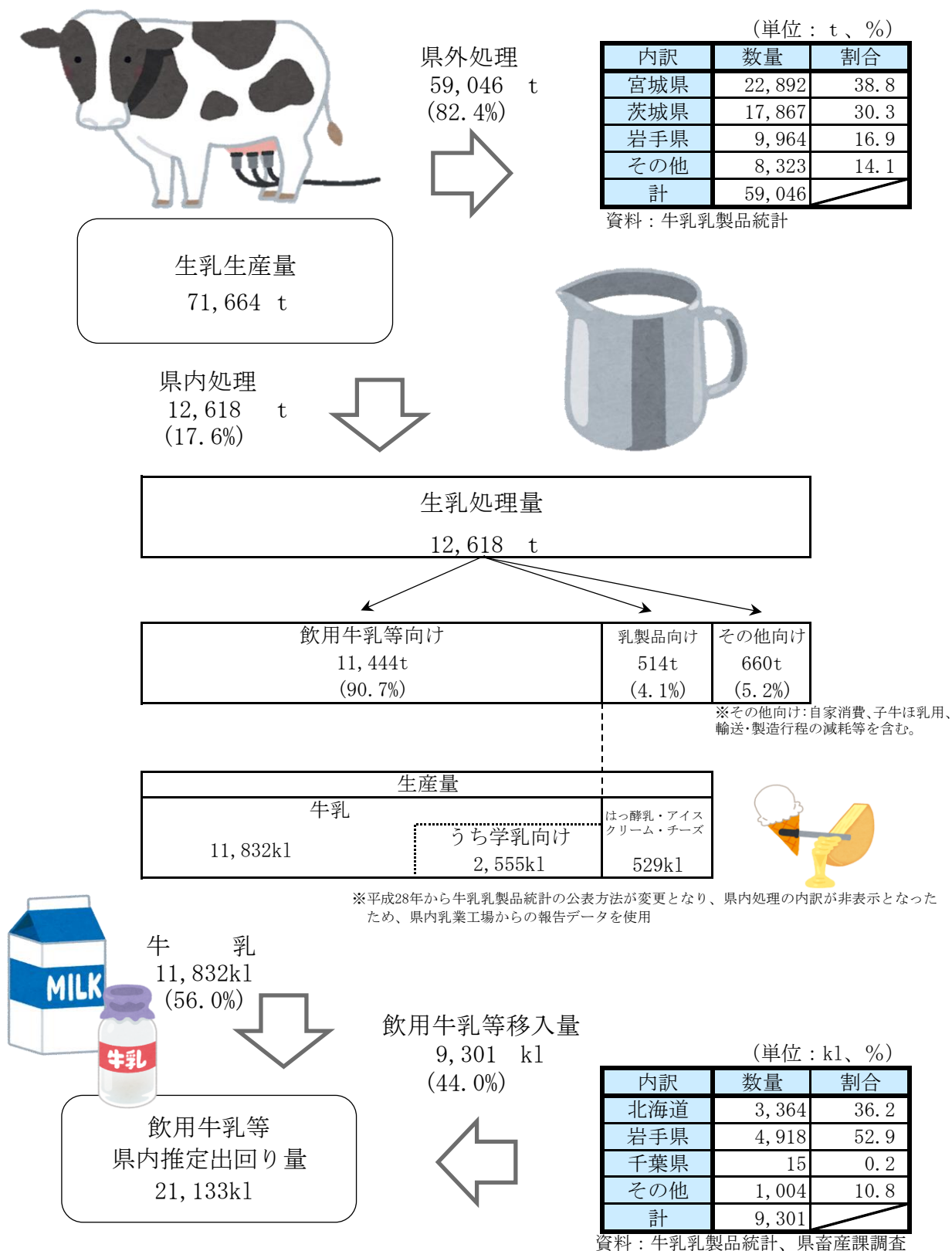
令和4年度のプール乳価は109.87円/kgで、前年度より約2円高くなっている。

(単位:円/kg)

区分	H22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R2年度	3年度	4年度
プール乳価 (補給金含む)	95.79	96.73	96.41	97.89	100.65	103.85	104.15	104.67	104.84	108.37	107.36	109.87

資料：東北生乳販売農業協同組合連合会事業概況

(4) 生乳の流通経路 (令和5年次)



2 肉 用 牛

(1) 子牛の取引頭数

令和5年の本県の子牛取引頭数は、前年より2.0%増の10,294頭となっている。

(単位：頭)

区分		S55年	60年	H2年	7年	12年	17年	22年	27年	R3年	4年	5年
初生子牛	肉専用種	7,127	8,033	8,535	6,657	7,360	5,856	7,268	6,059	6,526	6,637	7,412
	F1・乳用種	935	3,811	3,668	9,507	8,220	8,603	6,965	5,468	3,813	3,456	2,882
	計	8,062	11,844	12,203	16,164	15,580	14,459	14,233	11,527	10,339	10,093	10,294

資料：全国肉用牛振興基金協会調査

(2) 子牛の価格

令和5年の県内市場における子牛価格は、黒毛和種は550千円（対前年比16.0%減）、日本短角種は172千円（対前年比28.3%減）となっている。

(単位：千円(税込))

区分		S55年		60年		H2年		7年	12年	17年	22年	27年	R3年	4年	5年
		春	秋	春	秋	春	秋	1～12月	1～12月	1～12月	1～12月	1～12月	1～12月	1～12月	1～12月
品 種 別	黒毛和種	285	305	157	206	355	318	279	355	470	387	639	728	655	550
	日本短角種	272	277	177	205	273	187	127	107	209	164	314	247	240	172
子牛平均価格		267	284	161	205	330	260	241	337	462	385	635	727	655	550

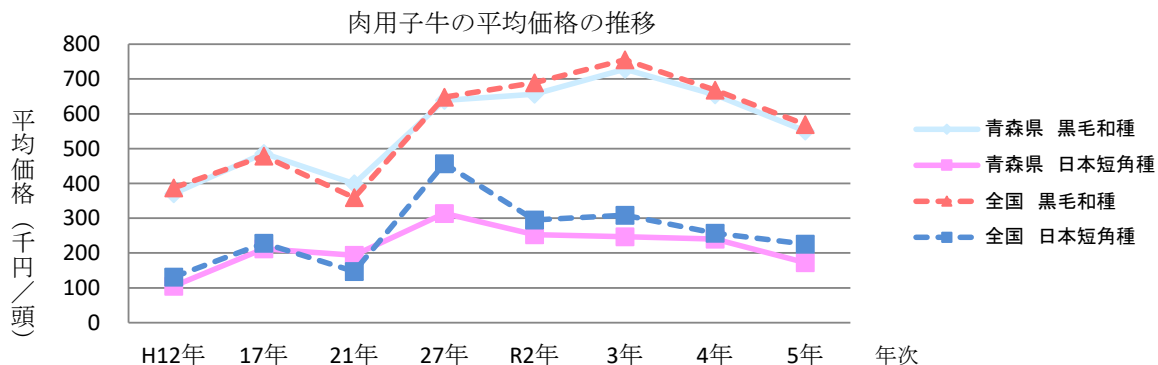
資料：農畜産業振興機構肉用子牛取引情報

(3) 肉用子牛取引状況

(単位：頭、kg、円、円/kg(税込))

区分		青 森 県				全 国			
		取引頭数	平均体重	平均価格	kg当たり単価	取引頭数	平均体重	平均価格	kg当たり単価
黒毛和種	平成12年	4,713	276	370,760	1,342	355,594	279	387,108	1,385
	平成17年	5,593	285	486,143	1,703	361,864	273	478,716	1,755
	平成21年	6,660	292	399,455	1,368	387,893	278	359,210	1,292
	平成27年	4,995	293	638,559	2,176	326,300	278	647,489	2,332
	令和2年	6,163	313	656,130	2,093	342,798	295	688,976	2,332
	令和3年	6,328	314	728,212	2,318	348,530	295	755,156	2,561
	令和4年	6,412	317	654,755	2,067	360,813	296	668,528	2,259
	令和5年	6,783	317	550,210	1,736	366,887	297	569,134	1,918
日本短角種	平成12年	155	270	104,959	389	1,761	236	131,079	556
	平成17年	88	277	212,350	768	1,218	242	228,122	942
	平成21年	62	276	193,691	702	1,177	242	147,024	607
	平成27年	58	248	314,019	1,267	963	239	456,982	1,915
	令和2年	26	280	253,000	904	793	242	295,502	1,219
	令和3年	11	277	246,900	893	723	241	308,806	1,282
	令和4年	2	323	240,350	745	728	243	257,191	1,060
	令和5年	2	254	172,150	679	688	237	226,016	954

資料：農畜産業振興機構肉用子牛取引情報

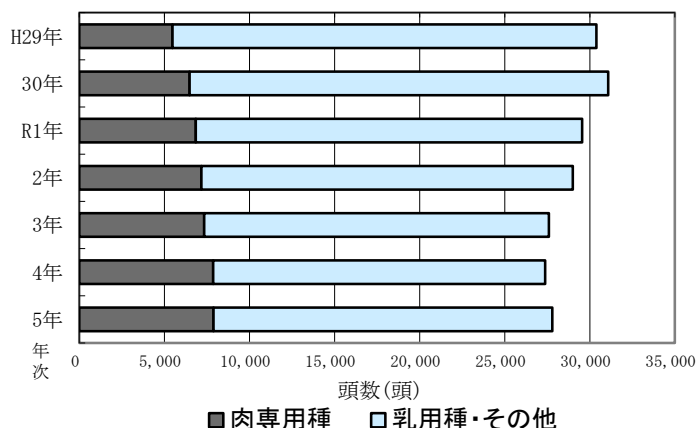


(3) 肉用牛（成牛）の出荷頭数

令和5年の出荷頭数は、前年の1.5%増の27,792頭で、種類別内訳は、乳用種及びその他72%、肉専用種28%となっている。

(単位：頭)

	肉専用種	乳用種・その他	合計
H29年	5,481	24,919	29,352
30年	6,481	24,605	30,400
R1年	6,847	22,705	29,552
2年	7,175	21,834	29,009
3年	7,335	20,262	27,597
4年	7,873	19,510	27,383
5年	7,894	19,898	27,792



資料：畜産物流通統計

(4) 肉用牛の流通（令和5年次）



総出荷頭数
27,792頭

県外処理
12,775頭
(46.0%)

県内処理
15,017頭
(54.0%)

(67.1%)

県内と畜頭数
22,366頭

県外からの
生体移入
7,349頭
(32.9%)

(単位：頭、%)

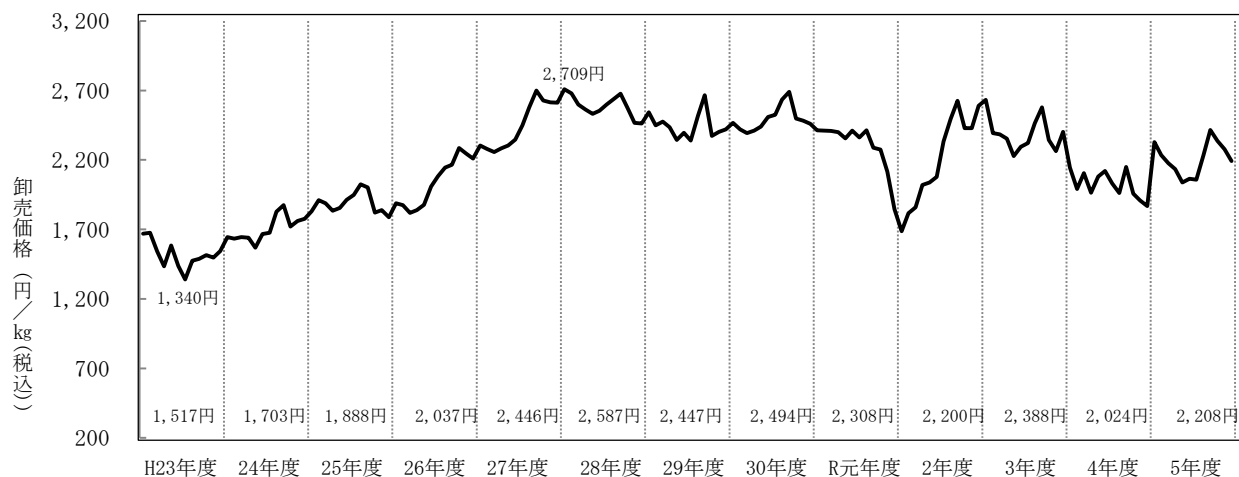
内訳	頭数	割合
茨城県	3,702	29.0
東京都	3,134	24.5
宮城県	1,847	14.5
その他	4,092	32.0
計	12,775	

(単位：頭、%)

内訳	頭数	割合
北海道	3,563	48.5
岩手県	3,052	41.5
宮城県	345	4.7
福島県	293	4.0
その他	96	1.3
計	7,349	

資料：畜産物流通統計

(5) 牛枝肉の卸売価格の推移（東京市場「和牛去勢A4」）

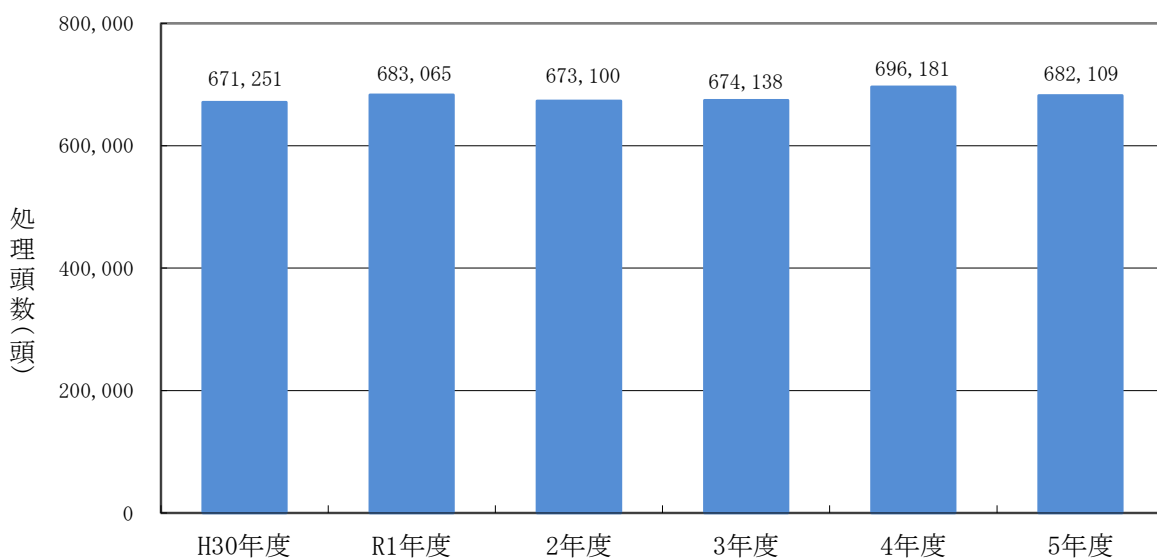


資料：農林水産省食肉流通統計、食肉市況情報

3 豚

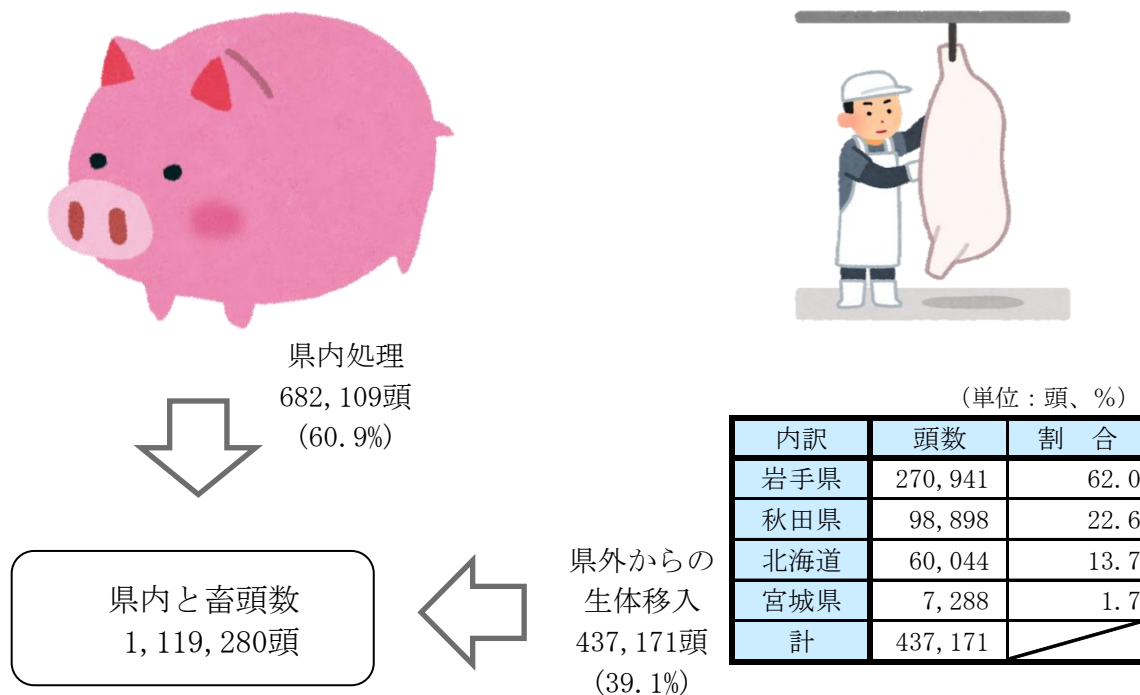
(1) 肉豚の県内処理頭数

令和5年度の肉豚の県内処理頭数は、前年に比べて2.0%減の682,109頭となっている。



資料：県食肉衛生検査所調査

(2) 肉豚の流通（令和5年度）



資料：県食肉衛生検査所調査

(3) 子豚の価格

(単位：円／頭)

区分	S55年	60年	H2年	7年	12年	17年	22年	27年	R3	R4	R5
価格	25,957	25,606	22,186	18,846	14,606	19,075	15,974	19,864	15,497	17,262	10,778

資料：県畜産課調査

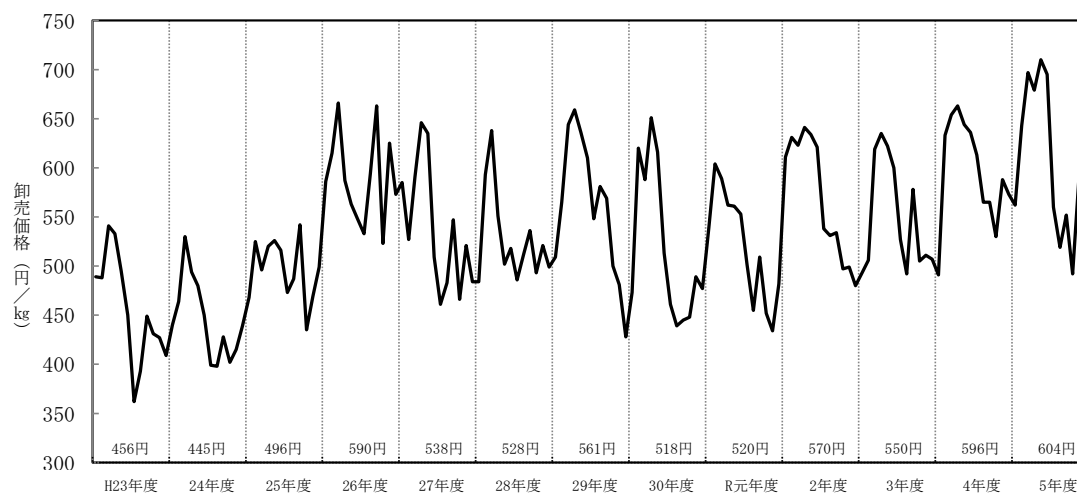
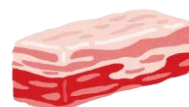
(4) 豚枝肉の卸売価格（東京市場省令規格）

(単位：円／kg)

区分	S55年	60年	H2年	7年	12年	17年	22年	27年	R3	R4	R5
価格	628	601	486	458	436	480	462	557	546	588	607

資料：畜産物流通統計

<参考> 豚枝肉の卸売価格の推移（東京市場「上」）



資料：農林水産省食肉流通統計、食肉市況情報

4 鶏 卵



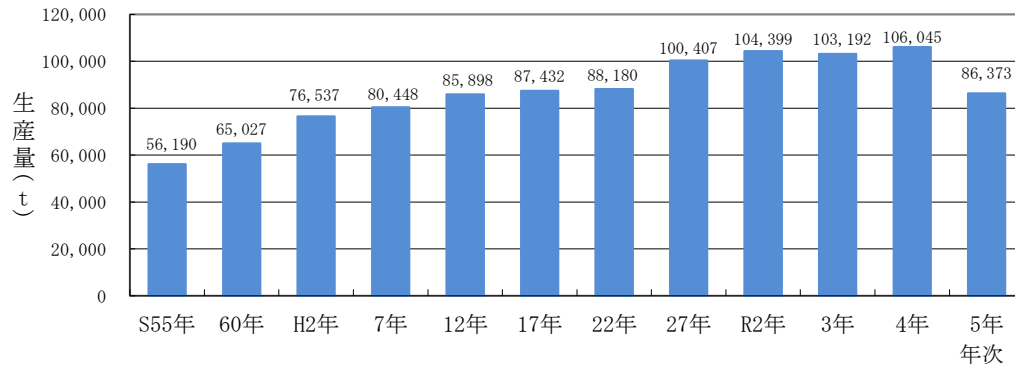
(1) 鶏卵の生産量及び出荷量

令和5年の本県鶏卵の生産量は、前年に比べて18.6%減の86,373tとなっている。

(単位：t)

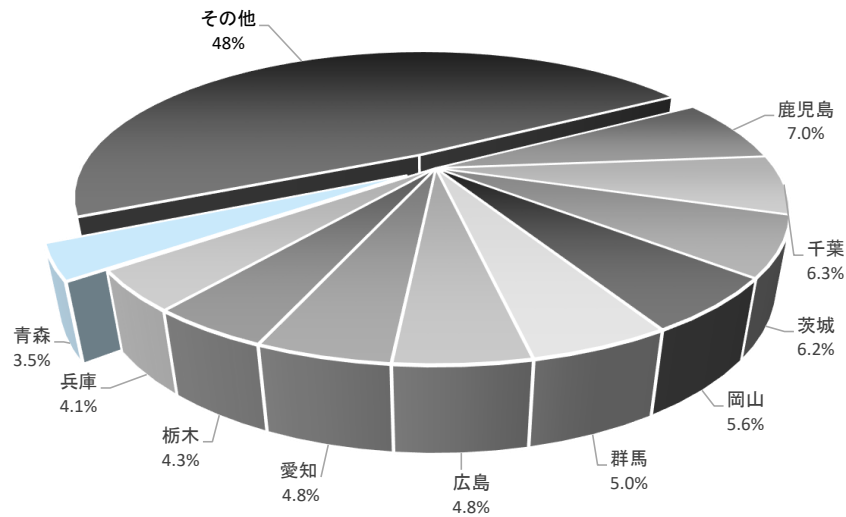
区分	S55年	60年	H2年	7年	12年	17年	22年	27年	R2年	3年	4年	5年
生産量	56,190	65,027	76,537	80,448	85,898	87,432	88,180	100,407	104,399	103,192	106,045	86,373
出荷量	55,108	63,602	74,881	77,808	83,858	85,597	86,538					

※出荷量は平成27年以降データなし



資料：畜産物流通統計

(2) 鶏卵の都道府県別生産量 (令和5年次)



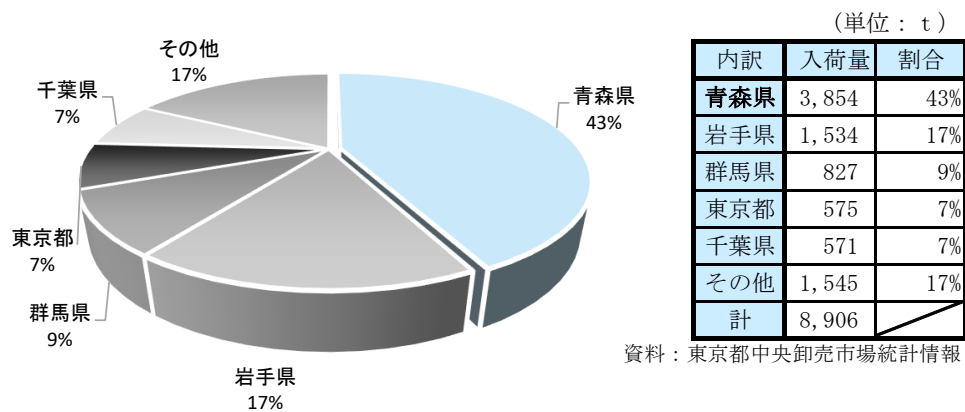
内訳	鹿児島	千葉	茨城	岡山	群馬	広島	愛知	栃木	兵庫	青森	その他	合計
生産量	169,898	153,324	150,562	135,838	122,337	116,953	116,241	105,723	99,427	86,373	1,181,097	2,437,773
割合	7.0%	6.3%	6.2%	5.6%	5.0%	4.8%	4.8%	4.3%	4.1%	3.5%	48.4%	

※青森県は全国13位 割合3.5%

資料：畜産物流通統計

(3) 東京都中央卸売市場入荷量に占める県産鶏卵の割合（令和5年次）

本県産鶏卵の東京都中央卸売市場への入荷量は、全国第1位の3,854tで、全入荷量の43%を占めている。



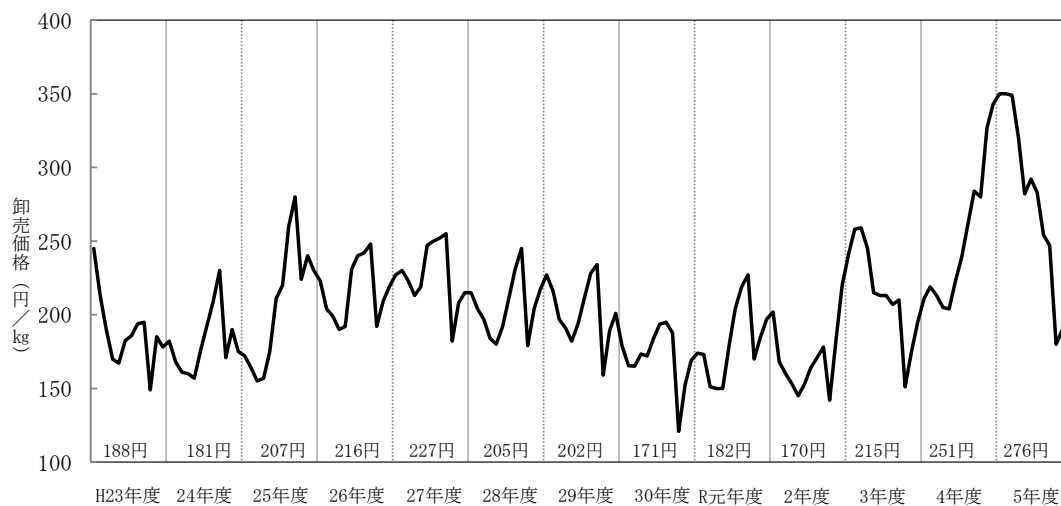
(4) 鶏卵の卸売価格（東京市場、規格「M」）

(単位：円/kg)

区分	S55年度	60年度	H2年度	7年度	12年度	17年度	21年度	26年度	30年度	R2年度	3年度	4年度	5年度
卸売価格	300	279	241	197	185	167	175	216	171	170	215	251	276

資料：JA全農たまご（株）「たまご相場」
(昭和60年までは畜産物流通統計)

<参考> 鶏卵卸売価格の推移（東京市場、規格「M」）



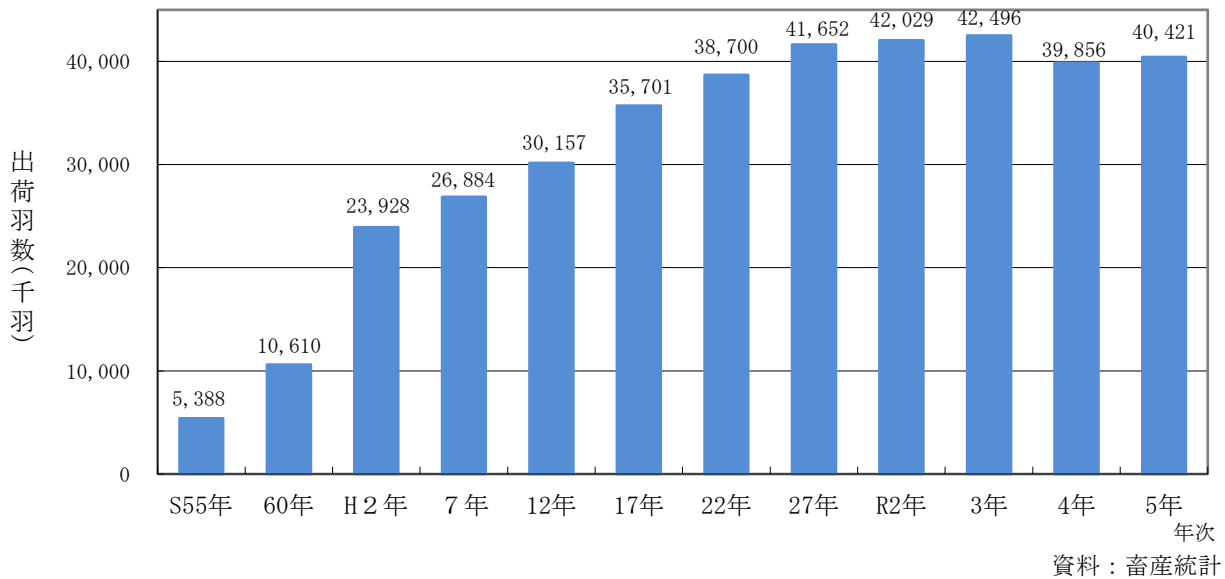
資料：全農畜産販売部情報

5 ブロイラー



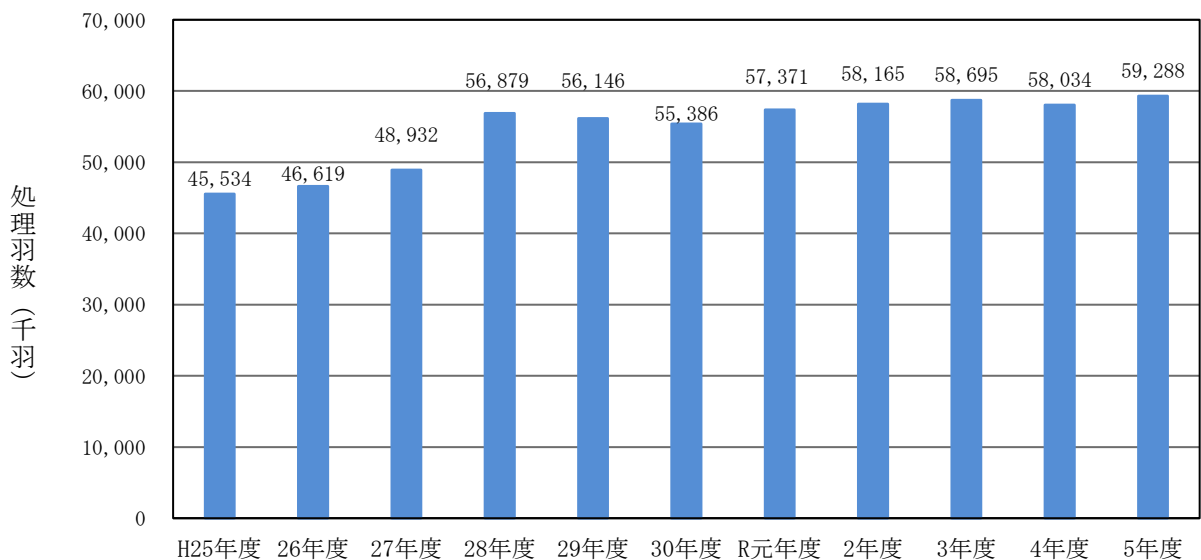
(1) ブロイラー出荷羽数

令和5年の出荷羽数は、前年に比べて1.4%増の40,421千羽となっている。



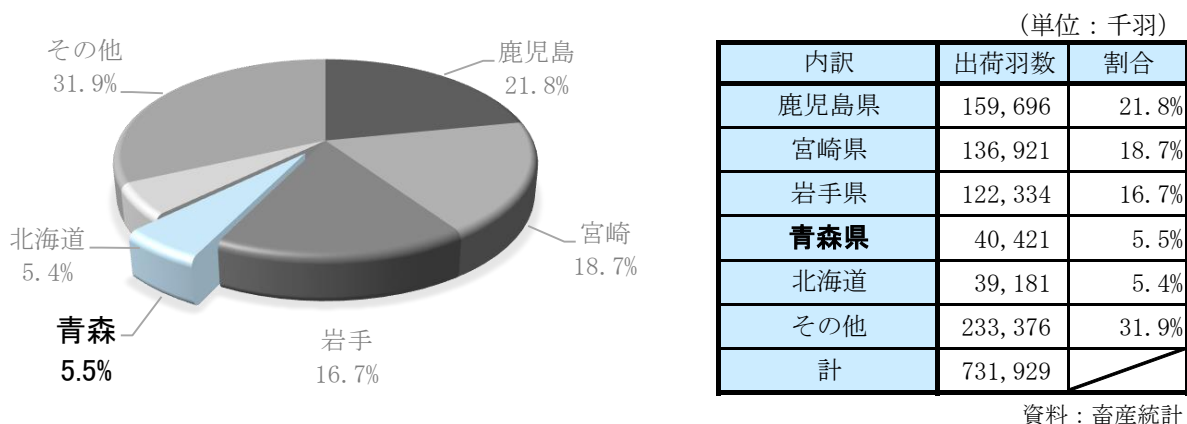
(2) ブロイラー処理量

令和5年度の県内処理羽数は、前年に比べて2.2%増の59,288千羽となっている。

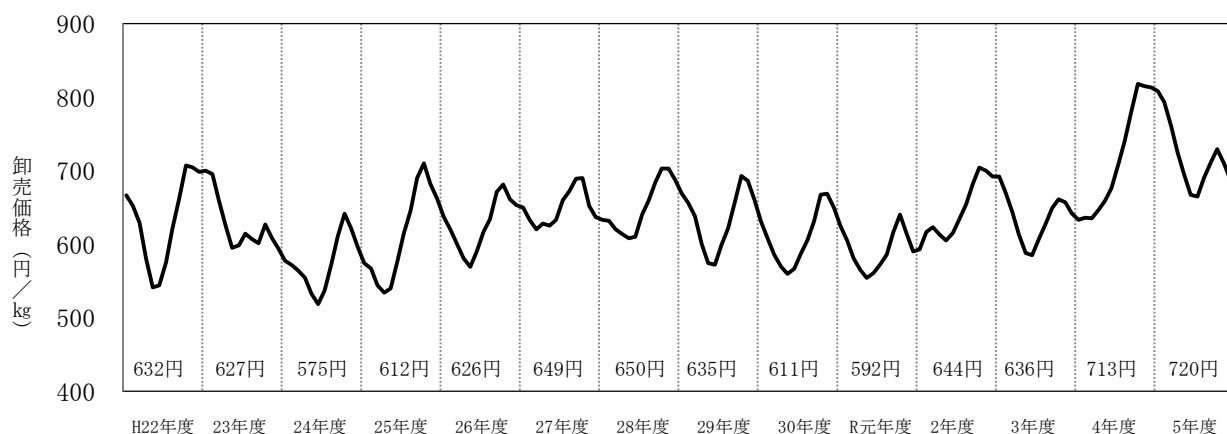


(3) ブロイラーの都道府県別出荷羽数（令和5年次）

本県産ブロイラーの出荷羽数は、全国4位の40,421千羽で全体の5.5%を占めている。



(4) 鶏肉の卸売価格の推移（東京市場、もも肉）



資料：食鳥市況情報、ブロイラー卸売価格

6 畜産物支出金額、購入数量

1人当たり支出金額、購入数量（令和5年次）

(単位：円、g、本)

区分		消費支出	食料費	食料費の内訳					
				牛乳※	卵	牛肉	豚肉	鶏肉	生鮮魚介
青森市 世帯人数 2.83人	支出金額	1,116,770	349,116	4,865	3,795	5,718	12,299	6,004	16,480
	購入数量	—	—	111	11,329	1,915	8,293	5,633	9,943
全 国 世帯人数 2.90人	支出金額	1,216,538	358,156	5,423	4,485	7,396	11,570	6,399	14,158
	購入数量	—	—	121	10,268	2,018	7,600	6,189	6,368

※牛乳の購入数量は200ml本換算

資料：家計調査年報

第5章 畜産物の生産費と収益性

1 生 乳

(1) 生乳生産費

令和4年の生乳100kg（乳脂肪分3.5%換算乳量）当たりの費用合計は10,739円となり、流通飼料費（44.6%）と労働費（17.3%）が高い割合を占めている。

（単位：円/100kg）

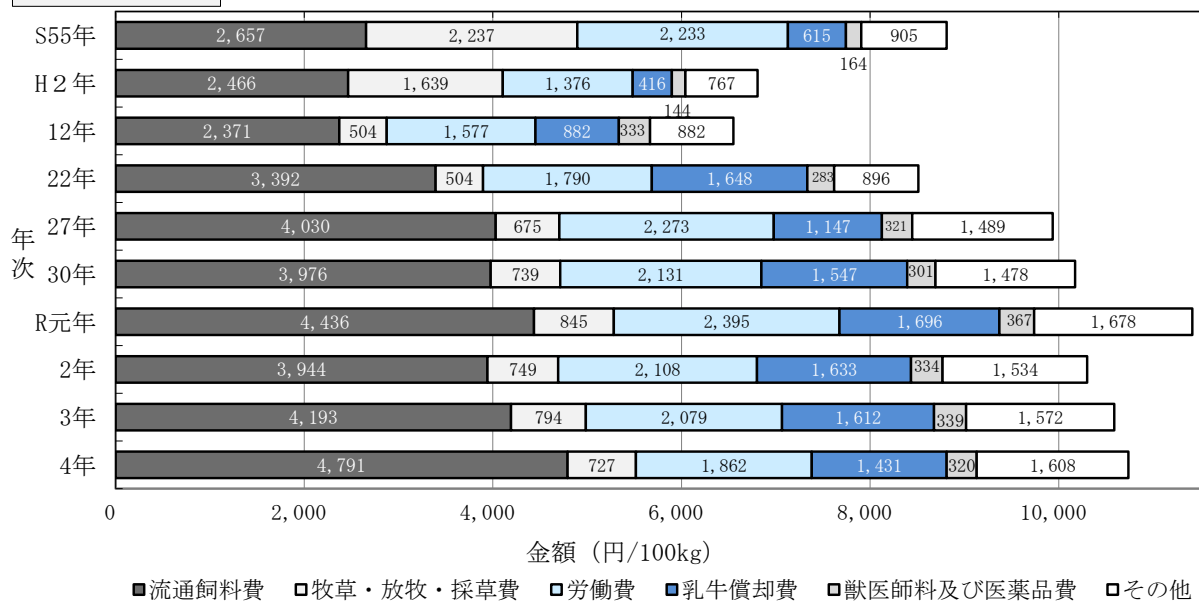
区分		S55年	60年	H2年	7年	12年	17年	22年	28年	R元年	R2年	R3年	R4年
生産費	全算入生産費	8, 101	7, 631	5, 677	6, 421	6, 747	7, 290	8, 490	9, 152	9, 920	8, 957	9, 311	9, 893
	費用合計	8, 811	8, 044	6, 808	6, 697	6, 549	7, 313	8, 513	9, 935	11, 417	10, 302	10, 589	10, 739

※平成12年から調査期間変更。

資料：畜産物生産費統計

※平成25年から青森県データが非公表のため東北データを用いた。

費用合計の内訳



○全算入生産費とは

生産費 = 費用合計 - 副産物価格

全算入生産費 = 生産費 + 支払利子 + 支払地代 + 自己資本利子 + 自作地地代

(2) 生乳生産における収益性

令和4年の搾乳牛1頭当たり（通年換算）の所得は、前年に比べて41.0%減の145,521円となっている。

（単位：円）

区分		S55年	60年	H2年	7年	12年	17年	22年	28年	R元年	2年	3年	4年
収益性	所得 (搾乳牛1頭)	196,813	198,860	291,629	259,396	204,675	145,955	164,052	255,459	272,815	271,034	246,612	145,521
	家族労働報酬 (1日)	6,506	8,864	17,379	14,893	13,473	10,656	10,180	14,192	16,938	16,614	14,957	9,250

※平成10年から労働費の算出方法が変更されている。

資料：畜産物生産費統計

※平成25年から青森県データが非公表のため東北データを用いた。

2 肉 用 牛

(1) 子牛生産費

令和4年の子牛1頭当たりの費用合計は、676,154円となり、流通飼料費(33.2%)と労働費(24.6%)が高い割合を占めている。

(単位：円/頭)

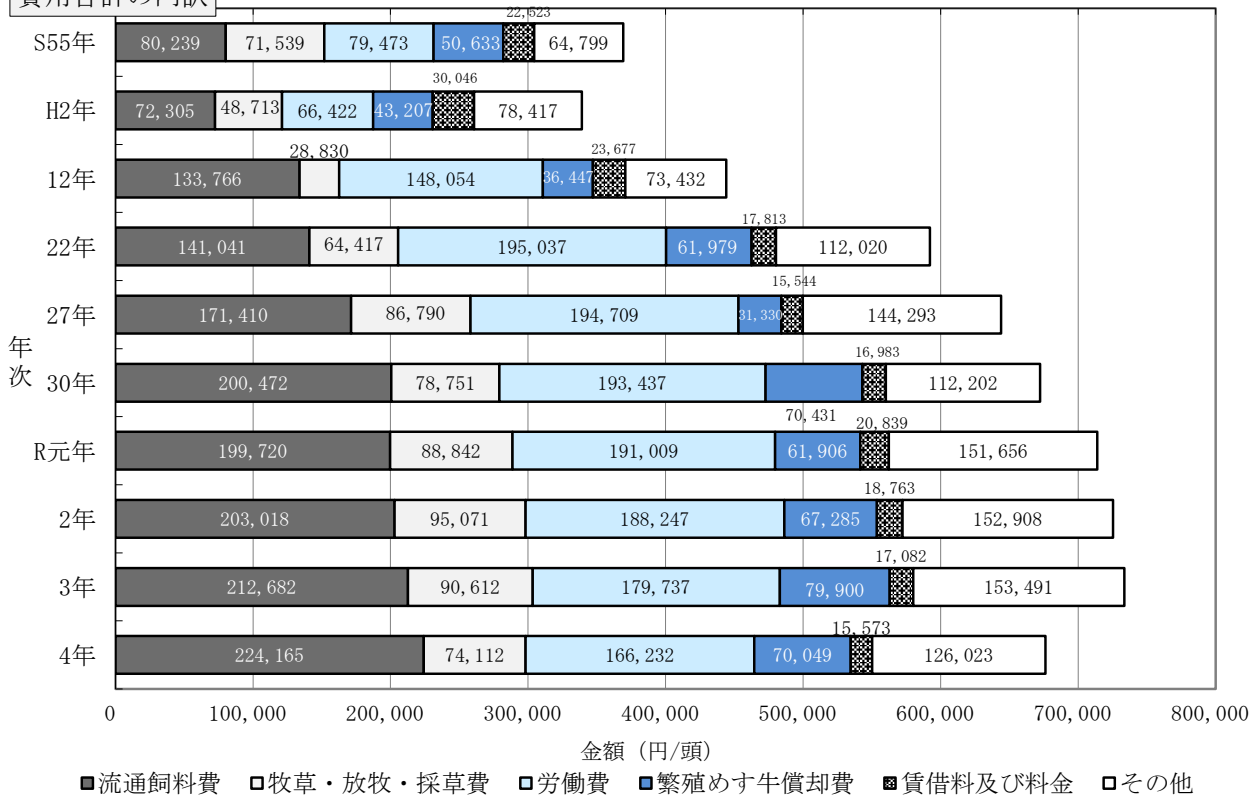
区分		S55年	60年	H2年	7年	12年	17年	22年	27年	R元年	2年	R年	4年
生産費	全算入生産費	410, 203	397, 362	381, 656	350, 671	468, 405	666, 565	721, 846	712, 172	787, 152	800, 524	823, 830	734, 706
	費用合計	369, 206	367, 095	339, 110	328, 614	444, 206	551, 043	586, 878	644, 076	713, 972	725, 292	733, 504	676, 154

※平成12年から調査期間変更。

資料：畜産物生産費統計

※平成24年から青森県データが非公表のため、東北データを用いた。

費用合計の内訳



(2) 子牛生産における収益性

令和4年の繁殖めす牛1頭当たりの所得は、前年に比べて12.6%減の123,882円となっている。

(単位：円)

区分		S55年	60年	H2年	7年	12年	17年	22年	27年	R元年	2年	3年	4年
収益性	所得	42, 251	△ 78, 645	218, 787	8, 545	54, 141	132, 956	△10, 089	220, 427	185, 295	107, 123	141, 728	123, 832
	家族労働報酬 (1日)	△ 21, 114	△ 15, 064	15, 894	△ 3, 586	△ 637	1, 526	-	8, 384	6, 101	839	2, 051	3, 351

※平成10年から労働費の算出方法が変更されている。

資料：畜産物生産費統計

※平成24年から青森県データが非公表のため、東北データを用いた。

(3) 肥育牛（去勢若齢）生産費

令和4年の肥育牛1頭当たりの費用合計は、1,448,588円となり、もと畜費（55.2%）と流通飼料費（31.2%）が高い割合を占めている。

（単位：円/頭）

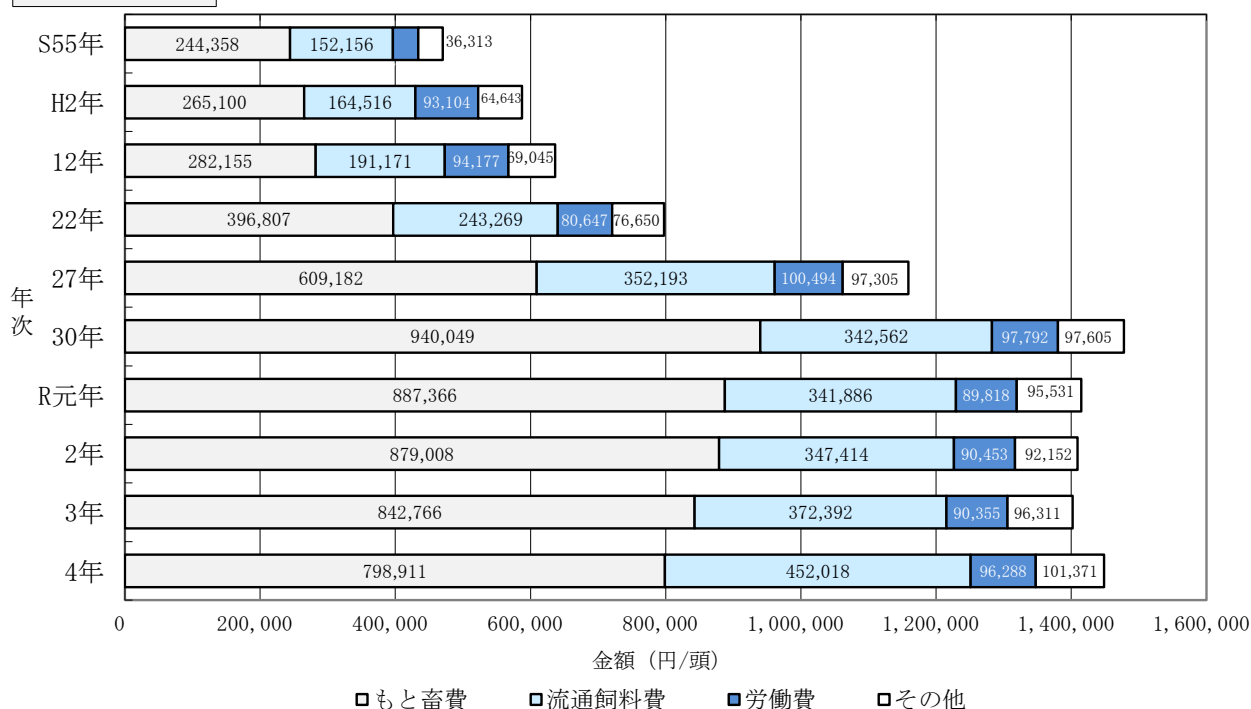
区分		S55年	60年	H2年	7年	12年	17年	22年	27年	R元年	2年	3年	4年
生産費	全算入生産費	476, 799	406, 732	565, 619	458, 050	623, 381	819, 921	825, 090	1, 175, 121	1, 422, 333	1, 413, 614	1, 409, 475	1, 452, 028
	費用合計	470, 076	416, 459	587, 363	455, 719	636, 548	815, 171	797, 373	1, 159, 174	1, 414, 601	1, 409, 027	1, 401, 824	1, 448, 588

※平成10年から労働費の算出方法変更。12年から調査期間変更。

資料：畜産物生産費統計

※平成25年から青森県データが非公表のため東北データを用いた。

費用合計の内訳



(4) 肥育牛（去勢若齢）生産の収益性

令和4年の肥育牛1頭当たりの所得は、△28,257円となっている。

（単位：円）

区分		S55年	60年	H2年	7年	12年	17年	22年	27年	R元年	2年	3年	4年
収益性	所得 (1頭)	66,515	83,536	101,135	95,105	8,857	192,233	8,866	165,800	△ 26,221	△ 120,814	22,358	△ 28,257
	家族労働報酬 (1日)	7,089	12,542	7,016	13,760	2,594	25,544	—	18,394	—	—	918	—

※平成25年から青森県データが非公表のため東北データを用いた。

資料：畜産物生産費統計

3 豚

(1) 肥育豚生産費

令和4年の肥育豚1頭当たりの費用合計は、43,395円となり、流通飼料費（69.7%）と労働費（11.6%）が高い割合を占めている。

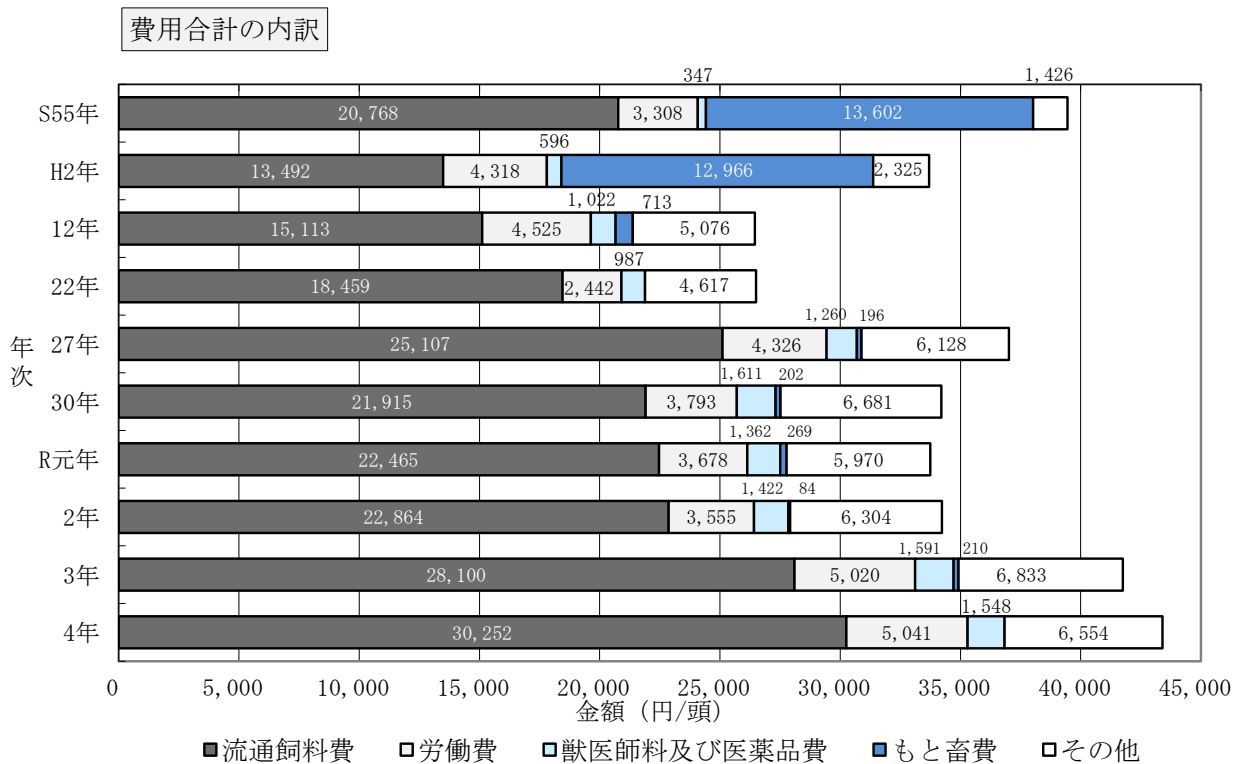
（単位：円/頭）

区分	S55年	60年	H2年	7年	12年	17年	22年	27年	R元年	2年	3年	4年
全算入生産費	39,526	46,560	32,612	25,050	27,324	24,751	26,837	36,897	33,621	33,867	41,083	42,804
費用合計	39,451	47,355	33,697	24,923	26,449	24,360	26,505	37,017	33,744	34,229	41,754	43,395

※平成5年から調査対象農家を肥育経営農家から一貫経営農家へ変更している。

資料：畜産物生産費統計

※平成24年から青森県データが非公表のため、東北データを用いた。



(2) 肥育豚生産の収益性

令和3年の肥育豚1頭当たりの所得は、前年に比べて71.2%減の2,060円となっている。

（単位：円）

区分	S55年	60年	H2年	7年	12年	17年	22年	27年	R元年	2年	3年	4年
所得 (1頭)	△ 496	1,705	△ 317	7,000	5,314	7,945	5,935	5,234	5,746	7,149	2,060	1,319
家族労働報酬 (1日)	—	1,882	△ 1,606	17,600	9,442	26,016	28,281	13,782	17,259	22,482	3,276	1,738

※平成24年から青森県データが非公表のため、東北データを用いた。

資料：畜産物生産費統計

※平成29年からデータなし。

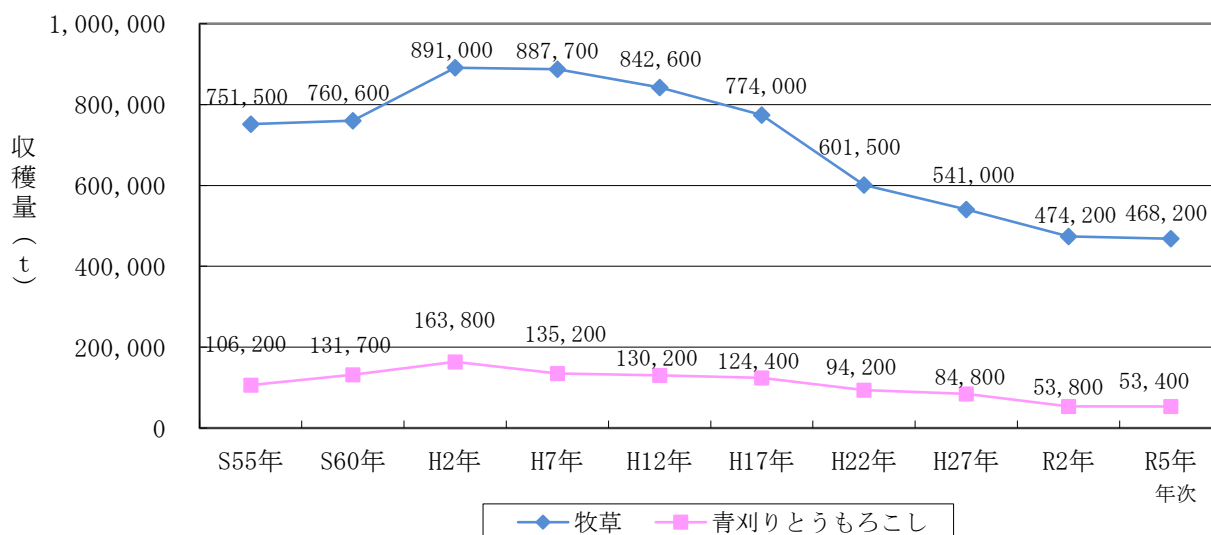
第6章 草地と飼料



1 自給飼料の生産

(1) 飼料作物の収穫量

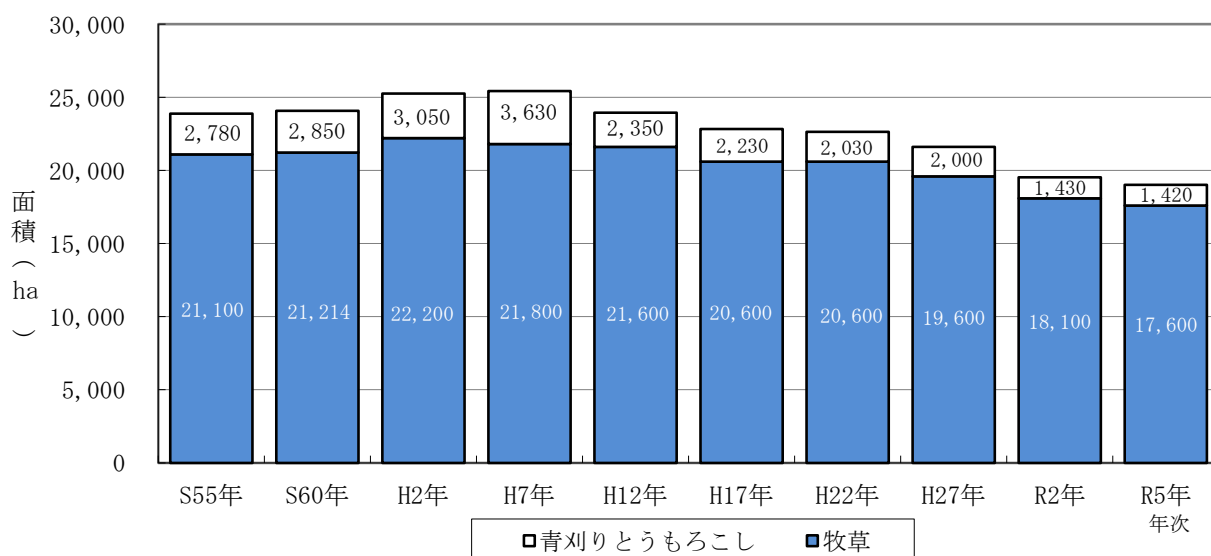
令和5年の飼料作物の収穫量は、令和2年に比べて牧草が1.3%減の468,200t、青刈りとうもろこしが0.7%減の53,400tとなっている。



資料：農林水産統計

(2) 飼料作物の作付面積

令和5年の作付面積は、令和2年に比べて牧草が2.8%減の17,600ha、青刈りとうもろこしが0.7%減の1,420haとなっている。



資料：農林水産統計

2 草地面積

(1) 事業別草地造成・整備面積（昭和36年～令和5年）

（単位：ha、％）

事業名	面積	割合
団体営草地開発整備事業	4,187.28	22.0
小規模草地改良事業	3,210.90	16.8
県営草地開発事業	2,177.35	11.4
畜産基地建設事業	1,410.20	7.4
小規模草地開発整備事業	1,245.61	6.5
畜産担い手育成総合整備事業	1,206.41	6.3
自給飼料生産総合振興対策事業	977.00	5.1
飼料基盤整備事業	922.50	4.8
地域畜産総合対策事業	655.41	3.4
緊急飼料生産向上特別対策事業	474.40	2.5
共同利用模範牧場設置事業	442.80	2.3
農業公社牧場設置事業	431.41	2.3
集約牧野造成事業	368.00	1.9
林野活用畜産環境総合整備モデル事業	282.35	1.5
自給飼料生産向上特別対策事業	275.60	1.4
改良牧野造成改良事業	188.00	1.0
公共育成牧場整備事業	179.32	0.9
県営公共牧場整備事業	130.76	0.7
公共牧場機能強化事業	90.74	0.5
強い農業づくり交付金飼料基盤活用の促進	25.00	0.1
草地畜産基盤整備事業	174.87	0.9
合 計	19,055.91	100.0

資料：県畜産課調査

(2) 公共牧場数と放牧頭数（令和5年7月1日現在）

（単位：か所、ha、頭）

地域名	牧場数	面積		放牧頭数			
			うち牧草地	計	乳用牛	肉用牛	馬・羊等
東青	12	1,212	506	107	0	107	0
中南	3	172	56	9	0	9	0
三八	12	2,335	1,033	678	1	677	0
西北	13	1,168	582	237	0	237	0
上北	25	5,340	2,403	1,657	338	1,319	0
下北	22	2,908	1,308	290	0	273	17
合計	87	13,135	5,888	2,978	339	2,622	17

※端数処理のため合計面積が合わない場合がある

資料：県畜産課調査



(3) 水田転作による飼料作物作付面積

（単位：ha、％）

区 分	H22年	H27年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
転作作物面積 ①	22,843	31,627	30,688	28,512	28,362	30,042	34,119	33,754	33,279
飼料作物面積 ②	5,413	12,496	11,852	10,841	10,185	9,882	12,547	14,400	12,871
割合 ②/①	23.7	39.5	38.6	38.0	35.9	32.9	36.8	42.7	38.7

※飼料用米含む

資料：経営所得安定対策等の手引き

3 配合飼料の生産

(1) 用途別入荷量

令和5年度の本県への用途別入荷量は約91万1千トンで、前年度に比べて9%の減となった。

(単位：t、%)

区分	養鶏用			養豚用			牛用		その他 家畜用	配合・混合飼料	
	育すう	成 鶏	ブロイラー	子 豚	肉 豚	種 豚	乳牛用	肉牛用		合計	うち配合飼料
S55年度	32,682	186,744	81,558	95,783	33,521	23,657	26,710	64,051	1,154	545,860	512,877
60年度	36,937	228,050	107,481	146,692	34,176	42,909	36,199	103,598	3,346	739,388	718,852
H2年度	39,968	253,177	183,397	233,344	85,149	58,587	44,646	138,039	6,215	1,042,522	1,016,583
7年度	38,346	233,150	188,993	199,422	79,536	53,331	44,352	143,301	10,433	1,005,847	990,864
12年度	34,550	213,943	204,191	162,640	99,296	49,834	56,629	133,954	3,335	970,119	958,372
17年度	34,032	216,257	250,450	142,071	124,349	40,324	55,075	134,106	278	998,274	996,941
22年度	36,987	214,483	249,129	108,738	142,915	45,552	44,926	141,728	64	1,030,026	1,026,555
27年度	39,030	258,767	242,405	94,102	139,733	49,034	36,288	143,848	49	1,041,687	1,041,204
前年度比	102	101	108	90	93	92	96	102	3	99	99
R3年度	33,190	256,066	242,707	82,604	160,348	47,694	42,052	115,268	3,443	1,018,058	1,015,785
前年度比	85	99	100	88	115	97	116	80	7,027	98	98
R4年度	29,595	238,173	235,494	82,355	164,846	46,038	42,521	122,287	3,424	999,770	997,472
前年度比	89	93	97	100	103	97	101	106	99	98	98
R5年度	32,842	193,842	188,321	82,481	168,990	43,194	40,769	124,045	2,224	910,723	908,173
前年度比	111	81	80	100	103	94	96	101	65	91	91

資料：飼料月報

(2) 用途別生産量

令和5年度の用途別生産量は約197万2千トンで、前年度に比べ1%の減となった。

(単位：t、%)

区分	養鶏用			養豚用			牛用		その他 家畜用	配合・混合飼料	
	育すう	成 鶏	ブロイラー	子 豚	肉 豚	種 豚	乳牛用	肉牛用		合計	うち配合飼料
S60年度	37,786	233,779	287,450	166,203	50,542	46,486	33,182	100,756	3,338	959,522	959,522
H2年度	51,022	306,290	433,446	291,848	120,048	80,641	68,564	168,681	10,293	1,530,833	1,530,833
7年度	46,329	311,027	447,485	250,820	111,773	69,574	48,793	140,946	10,496	1,437,243	1,437,243
12年度	52,923	381,432	523,579	171,904	145,867	74,410	51,070	133,387	2,662	1,615,609	1,595,867
17年度	53,334	369,661	598,559	168,046	187,447	90,890	60,514	115,829	445	1,714,420	1,710,511
22年度	56,969	338,738	636,562	168,587	221,140	86,279	60,914	159,337	363	1,791,923	1,789,322
27年度	63,910	399,357	717,800	155,747	240,944	87,113	71,901	195,428	312	1,992,155	1,991,687
前年度比	94	97	101	89	94	98	98	90	23	96	96
R3年度	58,386	403,085	742,552	140,068	257,686	93,300	77,735	178,101	3,740	2,014,183	2,013,306
前年度比	91	101	103	90	107	107	108	91	1,199	101	101
R4年度	55,694	384,656	735,485	144,932	261,936	90,584	78,909	180,366	3,569	1,995,384	1,994,621
前年度比	95	95	99	103	102	97	102	101	95	99	99
R5年度	56,166	366,699	735,239	144,084	268,640	87,787	75,616	174,919	2,258	1,971,595	1,971,043
前年度比	101	95	100	99	103	97	96	97	63	99	99

資料：飼料月報

4 青森県飼料作物奨励品種

令和7年2月現在

(1) 牧草

草種	品種名	早晩性	品種特性等	指定年次
イネ科牧草				
オーチャードグラス	アキミドリⅡ	極早生種	採草放牧兼用（高標高地を除く）。	平成14年
	まきばゆうか	極早生種	越夏性、耐病性に優れる。採草放牧兼用。	令和7年
	はるねみどり	早生種	1番草の収量が多い。採草放牧兼用。	平成23年
	まきばたろう	中生種	夏期の生育が旺盛。採草放牧兼用。	平成23年
	きよは	中生種	越夏性、耐病性に優れる。採草放牧兼用。	令和7年
	ハルジマン	晩生種	1番草の収量が多い。採草放牧兼用。	平成18年
	バッカス	晩生種	1番草の収量が多い。採草放牧兼用。	平成26年
チモシー	えさじまん	晩生種	越冬性及び永続性に優れる。	令和4年
	クンブウ	極早生種	秋の生育良好。採草用。	昭和61年
	ユウセイ	極早生種	収量が多く、耐倒伏性に優れる。採草用。	平成26年
	ノサップ	早生種	再生力が旺盛で収量が多い。採草用。	平成5年
	マオイ	早生種	収量が多く、越冬性及び越夏性に優れる。採草用。	令和5年
	クライマックス	中生種	葉長、葉幅が大きい。採草用。	昭和44年
	アッケシ	中生種	斑点病抵抗性が強い。採草用。	平成11年
	アルテミス	中生種	草丈が高く、収量が多い。採草用。	平成30年
	ヘリオス	中生種	収量が多い。採草用。	平成30年
	なつぷりか	中生種	収量が多く、越夏性に優れる。採草用。	令和6年
イタリアンライグラス	ナガハヒカリ	中生種	耐雪性が極めて強い。採草用。	平成8年
	ヤツカゼ2	中生種	早春早期利用に適し、夏期の生育が旺盛。採草放牧兼用。	平成23年
ペレニアルライグラス	フレンド	晩生種	耐雪性が強い。採草放牧兼用。	昭和50年
	夏ごしペレ	晩生種	越夏性及び永続性に優れる。採草放牧兼用。	令和4年
メドウフェスク	まきばさかえ	早生種	越冬性に優れ、早春の生育が良好。放牧用。	平成28年
フェストロリウム	那系1号	早生種	収量が多く、永続性に優れる。採草用。	平成31年
	東北1号	中生種	収量が多く、永続性に優れる。採草用。	平成26年
ケンタッキーブルーグラス	ラトー	早生種	収量が多く、越冬性、耐病性に優れる。放牧用。	平成26年
リードカナリーグラス	パラトン	早生種	草生密度が高く、雑草の侵入が少ない。刈遅れにより嗜好性が低下するため、1番草は出穂期までに刈り取る。	平成20年
マメ科牧草				
アカクローバ	ナツユウ	早生種	オーチャードグラスの晩生品種・チモシーの極早生・早生品種との混播に適する。	平成25年
	リョクユウ	早生種	オーチャードグラスの晩生品種との混播に適し、永続性に優れる。	平成28年
シロクローバ	フィア	早生種	葉は密生し、再生性に優れる。放牧用。	昭和44年
	マキバシロ	早生種	イネ科との混播適性が高い。	平成5年
アルファルファ	ケレス	早生種	耐病性、永続性に優れる。採草用。	平成26年
	ウシモスキー	早生種	収量が多く、耐病性、永続性に優れる。採草用。	平成30年

(2) サイレージ用とうもろこし

品種名（系統名）	早晩性	適当な栽植密度	品種特性等	指定年次
ゴールドデントKD421	極早生種	8,000本/10a	収量が多く、耐倒伏・折損性に優れる。	令和5年
ゴールドデントKD090カリス	極早生種	8,000本/10a	雌穂割合が高く、収量が多い。	令和5年
Z-corn950α (ZX9595)	極早生種	8,000本/10a	長稈で収量が多く、紋枯病に強い。	令和5年
パイオニア100日 (P9400)	早生種	7,000本/10a	長稈で収量が多く、耐病性、耐倒伏性に優れる。	平成27年
パイオニア106日 (36B08)	早生種	7,000本/10a	短稈で収量が多く、耐病性に優れる。	平成15年
LG3490 (旧：スノーデント108)	早生種	7,000本/10a	長稈で収量が多く、紋枯病に強い。	平成23年
パイオニア108日 (34N84)	早生種	7,000本/10a	収量が多く、耐倒伏性に優れる。	平成23年
北交65号 (北交65号)	早生種	7,000本/10a	収量が多く、耐病性に優れる。	平成26年
スノーデント110 (LG30500)	早生種	7,000本/10a	長稈で、耐倒伏性に優れる。	令和4年
パイオニア110日 (P1204)	早生種	7,000本/10a	収量が多く、耐倒伏性に優れ、紋枯病に強い。	令和7年
パイオニア118日 (P2088)	中生種	6,000本/10a	長稈で収量が多く、耐病性に優れる。	平成28年
スノーデント115 (LG31.588)	中生種	6,000本/10a	雌穂割合が高く、収量が多く、耐倒伏性に優れる。	令和7年
クミアイデント118N (GN1645)	晩生種	6,000本/10a	安定した収量で、耐病性、耐倒伏性に優れる。	平成19年
サイレージオーンNS125スーパー	晩生種	6,000本/10a	収量が多く、耐倒伏性に優れる。	令和7年

(3) その他飼料作物

草種	品種名	早晩性	品種特性等	指定年次
エン麦	前進	中生種	短稈で、子実が多い。サイレージ用。	昭和44年
	アムリⅡ	中生種	耐倒伏性に優れる。サイレージ用。	平成18年
	ニューオールマイティー	中生種	耐倒伏性に優れる。サイレージ用。	平成18年
ライ麦	春香	晩生種	収量が多く、耐倒伏性に優れる。	平成23年
飼料用稲	えみゆたか	早生種	冷涼地帯で玄米収量が多く、いもち病抵抗性に優れる。飼料用米向け品種。	平成28年
	ゆたかまる	中生種	玄米収量が多く、耐倒伏性及びいもち病抵抗性は極めて強い。飼料用米向け品種。	令和2年
	あおばまる	中生種	長稈で収量が多く、耐冷性が極めて強い。WCS向け品種。	令和3年

第7章 家畜衛生

1 家畜防疫事業の推移

家畜伝染病、届出伝染病を中心とした家畜疾病の検査等を計画どおり実施した。



(単位：頭、羽、群)

事業区分			H6年度	12年度	17年度	22年度	30年度	R2年度	3年度	4年度	5年度
検査事業	牛	ブルセラ症	11,625	3,819	5,825	3,486	1,488	2,498	77	9	6
		結核	11,674	3,910	6,112	3,574	1,578	2,559	88	7	6
		ヨネ病	1,656	7,150	9,046	7,704	11,463	11,896	13,385	14,128	11,066
		アカバネ病	1,529	1,026	540	489	490	485	490	464	229
		牛伝染性リンパ腫	1,034	617	500	530	1,768	2,097	1,792	1,844	1,707
		牛伝染性疾病	90,303	87,534	70,913	65,722	85,499	85,982	84,060	86,645	85,939
	馬	馬伝染性貧血	2,992	1,585	1,309	823	—	—	—	—	—
		馬伝染性子宮炎	652	496	385	266	—	—	—	—	—
		馬バラチフス	1,035	602	450	210	27	48	68	93	29
		馬鼻肺炎	447	300	230	209	21	20	25	30	10
	豚	豚オーエスキー病	4,359	4,612	4,220	4,961	790	740	701	725	690
		豚熱	—	—	—	520	450	1,350	1,808	1,889	1,605
	家きん	豚伝染性疾病	264,869	192,128	184,434	172,084	191,078	196,306	194,286	190,350	188,356
		ニューカッスル病(一般)	6,340	5,110	4,977	4,935	2,100	2,100	2,100	1,960	2,100
		ニューカッスル病(種鶏)	3,006	2,500	2,880	2,350	2,300	2,300	1,300	1,050	1,100
		家きんサルモネラ症(種鶏)	8,000	6,500	4,807	3,950	2,300	2,300	2,100	2,100	2,100
		マイコプラズマ症(種鶏)	8,200	6,500	5,004	3,850	2,300	2,300	1,300	1,050	1,100
		家きん伝染性疾病	370,730	288,997	304,995	439,510	377,663	421,353	373,603	364,874	333,606
	蜂	腐蛆病	10,444	10,293	9,957	9,077	7,878	7,187	7,329	7,238	7,107
	自衛防疫注射事業	牛	牛伝染性鼻気管炎(混合ワクチンを含む)	5,694	7,349	8,172	9,053	12,625	10,785	10,283	10,370
アカバネ病			9,569	9,323	8,430	8,015	7,226	6,815	5,982	5,798	5,437
気腫疽			16,820	12,956	12,072	—	—	—	—	—	—
牛クロストリジウム(混合)			—	—	—	8,569	6,574	5,850	5,169	4,882	4,430
炭疽			0	8	27	—	—	—	—	—	—
馬		馬インフルエンザ(混合ワクチンを含む)	1,492	234	204	710	583	616	650	694	573
		馬鼻肺炎	442	285	156	187	268	262	231	199	245
豚		豚丹毒	11,790	508,262	455,122	170,852	42,807	48,988	43,056	38,139	35,394
		豚パルボウイルス	1,699	23	0	47	—	—	—	—	—
		豚流行性脳炎・豚パルボウイルス混合	1,659	1,101	704	280	200	200	340	260	250
		豚流行性脳炎	11,208	2,987	2,839	1,550	393	477	400	430	460
鶏		ニューカッスル病	64,790	52,290	63,090	93,000	66,000	59,000	59,000	—	—
		ニューカッスル病(伝染性気管支炎混合を含む)	13,000	36,000	39,000	64,000	56,000	62,000	60,000	95,000	95,000

資料：県畜産課調査

2 監視伝染病発生状況

牛のヨーネ病、牛伝染性リンパ腫及び豚丹毒の発生が引き続きみられている。

(単位：頭、羽、群)

区 分		年次											
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
家畜伝染病 (法第2条)	ヨーネ病	38	25	5	25	2	1	5	14	9	10	4	5
	結核												
	高病原性鳥インフルエンザ				14					10	12	2	
	腐蛆病								14				
届出伝染病 (法第4条)	牛伝染性リンパ腫	29	44	42	42	60	73	70	68	87	74	72	56
	破傷風（牛）							1	2			3	
	サルモネラ症・牛			2	1	2		12		3	3	3	5
	牛ウイルス性下痢												2
	サルモネラ症・豚	4											
	サルモネラ症・鶏									3			
	馬鼻肺炎						1						
	豚流行性下痢		202	15	19								
	豚丹毒	9	67	37	39	33	11	9	5	8	8	27	22
	鶏痘					2				2			
	鶏伝染性気管支炎								5	4		18	
	鶏伝染性喉頭気管炎											8	
	ロイコチトゾーン症	16											
	バロア病					80		1					
	アカリンドニ病						1						

資料：県畜産課調査

第8章 環境保全

環境汚染発生状況

(1) 環境汚染の種類別発生件数

令和5年度の畜産環境汚染の発生は10件で、前年より減少

(単位：件)

区 分	H17年度	H22年度	H27年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
悪臭発生	7	7	7	6	5	4	4	6	5
水質汚濁	4	6	1	6	2	2	2	5	1
害虫発生		1					1	1	1
水質・悪臭		2	2	3	2	1			
悪臭・害虫	2	2			1	1	3		1
その他								3	2
計	13	18	10	15	10	8	10	15	10

※調査期間は各年度の7月1日～翌年6月30日

資料：県畜産課調査

(2) 畜種別発生件数

① 畜種別合計

(単位：件)

区 分	H17年度	H22年度	H27年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
豚	7	8	5	5		1	1	4	2
乳用牛	1	3		2	2	3	1		1
肉用牛	1	9	5	9	8	4	5	10	5
採卵鶏	2	1	1		1	1		1	
ブロイラー	2			1					
その他(馬・めん羊など)						1	3		2
計	13	21	11	17	11	10	10	15	10

※調査期間は各年度の7月1日～翌年6月30日

資料：県畜産課調査

② 飼養規模別件数(畜種別合計の令和5年度内訳)

(単位：件)

区 分	水質汚濁	悪臭	害虫	水質・悪臭	水質・害虫	悪臭・害虫	その他	計
豚	1～99頭							0
	100～999頭							0
	1,000～1,999頭		1				1	2
	2,000～2,999頭							0
	3,000頭～							0
採卵鶏	1～1,999羽							0
	2,000～9,999羽							0
	10,000～49,999羽							0
	50,000～99,999羽							0
	100,000羽～							0
ブロイラー	1～1,999羽							0
	2,000～99,999羽							0
	100,000～299,999羽							0
	300,000～499,999羽							0
	500,000羽～							0
乳用牛	1～9頭							0
	10～29頭							0
	30～99頭							0
	100～299頭							0
	300頭～		1					1
肉用牛	1～9頭							0
	10～19頭							0
	20～99頭		2			1	1	4
	100～499頭							0
	500頭～	1						1
その他		1	1					2
計	1	5	1	0	0	1	2	10

資料：県畜産課調査

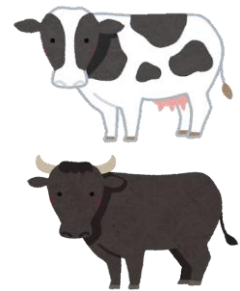
第9章 参考資料

1 青森県酪農 ・肉用牛生産近代化計画の目標（令和3年3月）

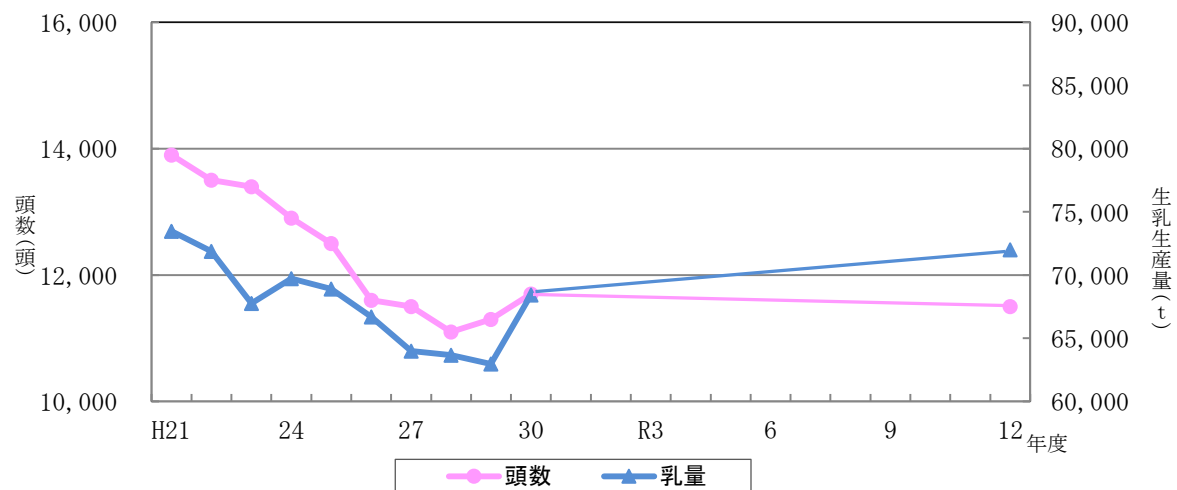
（1）生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標

（単位：頭、kg、t）

区分	総頭数 (頭)	成牛頭数 (頭)	経産牛頭数 (頭)	経産牛1頭当たり 年間搾乳量 (kg)	生乳生産量 (t)
現在 (H30年度)	11,700	8,520	8,290	8,370	68,430
目標 (R12年度)	11,500	8,390	8,200	8,780	72,000



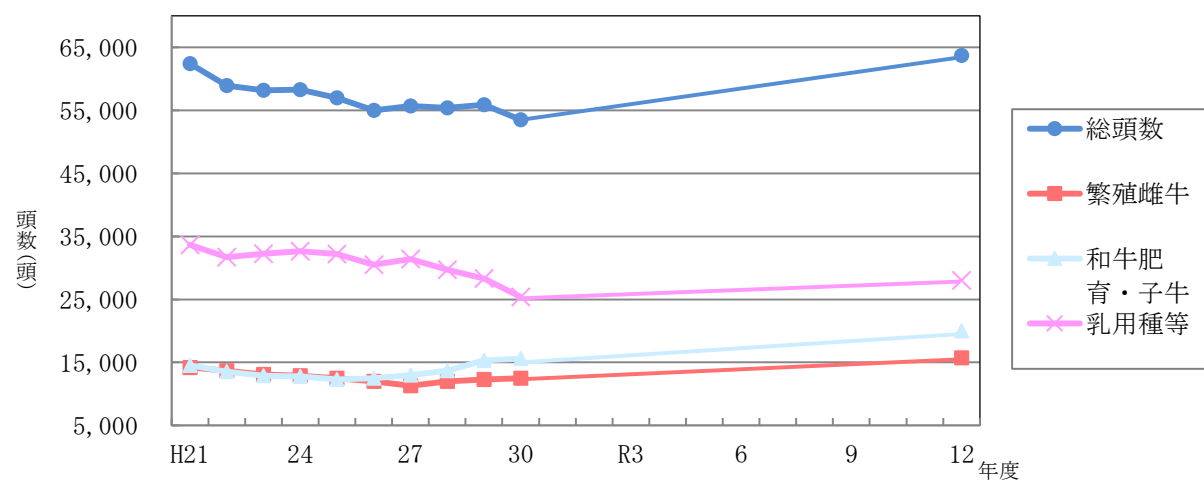
（注）成牛とは、24ヵ月齢以上のものをいう。



（2）肉用牛の飼養頭数の目標

（単位：頭）

区分	肉用牛 総頭数	肉 専 用 種				乳 用 種 等		
		合 計	繁殖雌牛 (育成牛含む)	肥育牛	その他	合 計	乳用種	交雑種
現在 (H30年度)	53,500	28,100	12,500	10,900	4,700	25,400	15,200	10,200
目標 (R12年度)	63,700	35,700	15,700	13,100	6,900	28,000	12,000	16,000

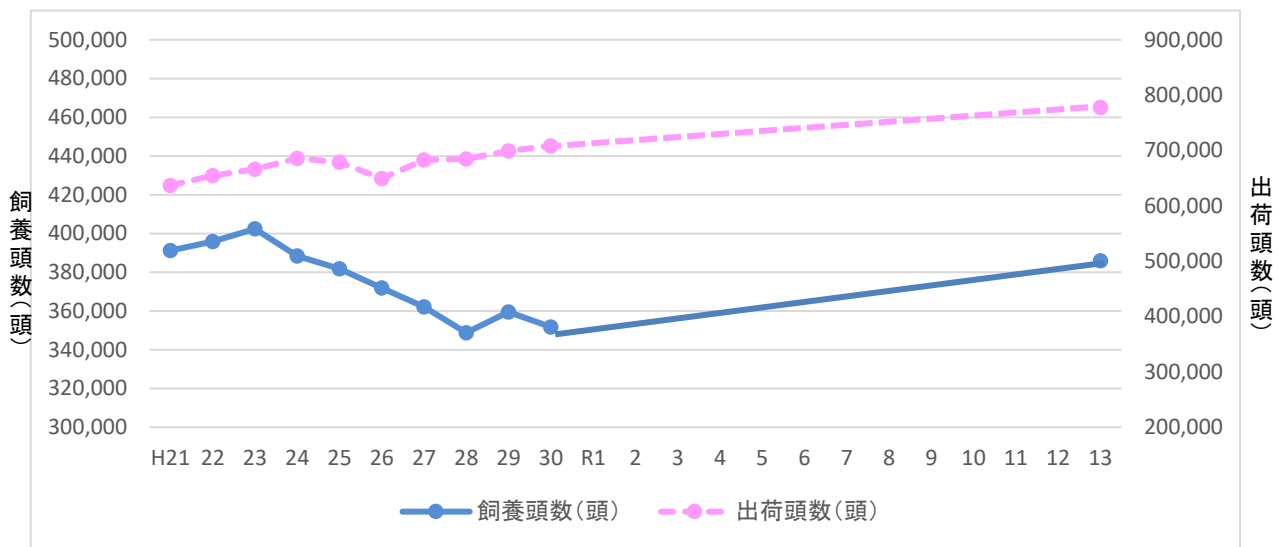
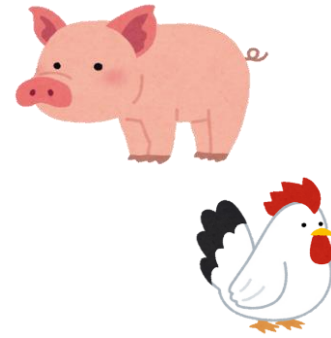


2 青森県養豚・養鶏振興プランの目標（令和4年3月）

（1）豚の飼養頭数の目標

区 分	飼養頭数（頭）	出荷頭数（頭）
現 在 (H30年度)	351,800	708,668
目 標 (R13年度)	386,000	778,000

（注）出荷頭数は畜産課調査。

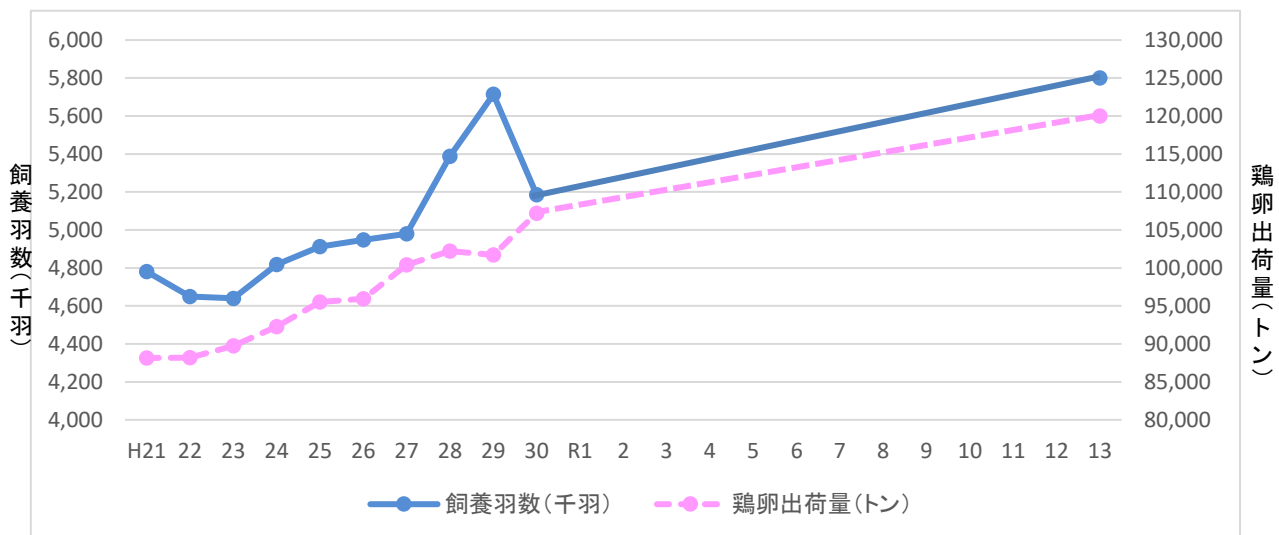


（2）採卵鶏の飼養羽数の目標

区 分	飼養羽数（千羽）	鶏卵出荷量（千トン）
現 在 (H30年度)	5,186	107
目 標 (R13年度)	5,800	120

（注）1. 飼養頭数は成鶏めす（6か月以上）の数

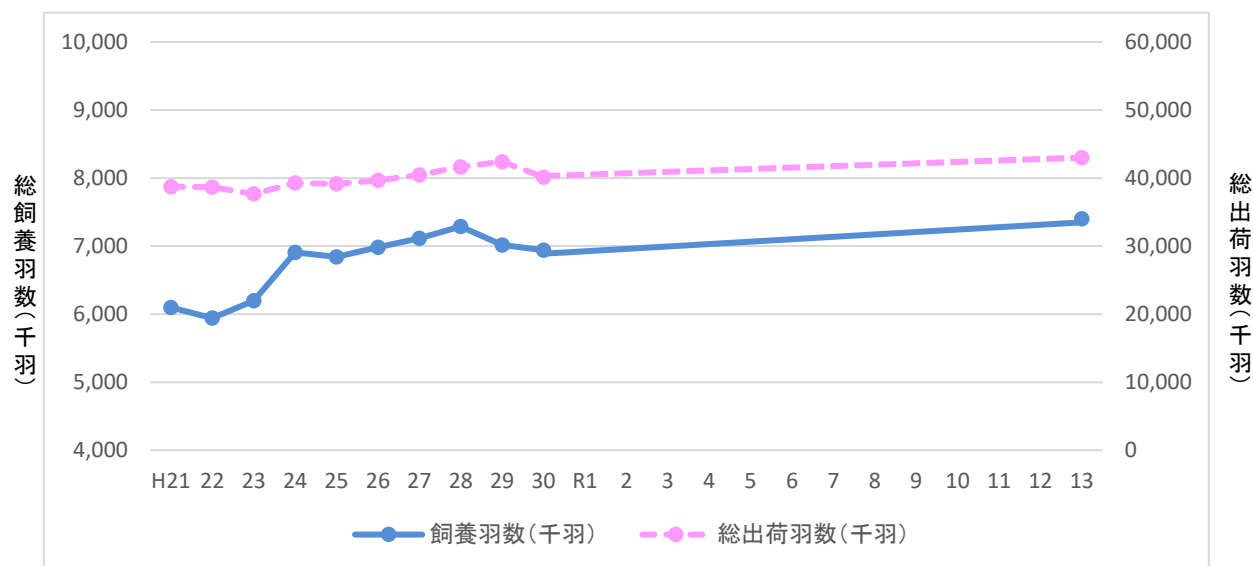
2. 22年度の飼養頭数は調査未実施のため、前後年の平均値で示した。



(3) ブロイラーの飼養羽数の目標



区 分	飼養羽数 (千羽)	総出荷羽数 (千羽)
現 在 (H30年度)	6,943	40,137
目 標 (R13年度)	7,400	43,000



3 畜産行政組織の概要

農林水産部

(令和7年4月1日現在)

畜産課

企画管理グループ

経営支援グループ

衛生・安全グループ

飼料環境グループ

電話番号

FAX

郵便番号

住 所

017-734-9495

017-734-9496

734-8144 030-8570 青森市長島一丁目1-1

017-734-9498

017-734-9497

三八農林水産事務所 八戸家畜保健衛生所

衛生指導課

防疫課

畜産振興課

0178-27-7415

27-7418

039-1101

八戸市尻内町毛合清水7-2

西北農林水産事務所 つがる広域家畜保健衛生所

衛生指導課

防疫課

畜産振興課

0173-42-2276

42-6087

038-3151

つがる市木造若竹2-1

上北農林水産事務所 中央家畜保健衛生所

衛生指導課

防疫課

畜産振興課

病性鑑定課
(青森市)

0176-23-6235

23-3044

034-0093

十和田市西十二番町19-23

0176-23-5115

017-764-1744

728-0335

030-0134

青森市大字合子沢字松森395-26

下北農林水産事務所 むつ家畜保健衛生所

防疫・衛生指導課

畜産振興課

0175-22-1254

22-1259

035-0072

むつ市金谷二丁目18-25

4 試験研究機関

地方独立行政法人青森県産業技術センター

畜産研究所		電話番号	FAX	郵便番号	住所
繁殖技術肉牛部					
中小家畜・シヤモロツク部		0175-64-2231	64-2230	039-3156	野辺地町枇杷野51
酪農飼料環境部					
和牛改良技術部		0173-26-3153	26-3205	038-2816	つがる市森田町森田月見野558

5 行政区域・各機関所在地



6 畜産関係機関・団体

(令和7年3月31日現在)

	名 称	郵便番号	住 所	電話番号	F A X
協 会 等	一般社団法人青森県畜産協会	030-0822	青森市中央2-1-15	017-723-2523	731-1196
	公益社団法人青森県獣医師会	030-0813	青森市松原2-8-2	017-722-5989	722-6010
	公益社団法人青森県獣医師会 食鳥検査センター	034-0001	十和田市大字三本木字野崎1-50	0176-58-0192	58-0193
	青森県養鶏協会	030-0847	青森市東大野2-1-15 青森県農協会館内	017-729-8799	752-8191
	一般社団法人青森県養豚協会	030-0813	青森市松原3-8-5	017-752-1027	777-1590
	青森県酪農協会	039-3104	上北郡野辺地町大月平33-1 JAゆうき青森らくのう営農センター内	0175-64-3241	64-3244
	青森県飲用牛乳協会	036-8071	弘前市大久保西田364 萩原乳業株式会社内	0172-32-1451	32-8726
	青森県家畜人工授精師協会	030-0847	青森市東大野2-1-15 全農青森県本部畜産酪農課内	017-729-8650	762-1082
	一般社団法人青森県配合飼料 価格安定基金協会	030-0812	青森市堤町1-2-21 青森県食糧会館3階	017-777-6543	775-5354
	青森県牛乳普及協会	030-0847	青森市東大野2-1-15 青森県農協会館内	017-729-8631	762-1082
	一般社団法人日本短角種登録協会 青森県支部	039-2567	上北郡七戸町鶴児平72-1	0176-60-1070	60-1073
	公益社団法人全国和牛登録協会 青森県支部	039-2567	上北郡七戸町鶴児平72-1	0176-60-1070	60-1073
	東北軽種馬協会	039-0814	三戸郡南部町坨渡字鯨ノ口8-13	0178-51-8765	84-2829
	一般社団法人青森県畜産・飼料 コンビナート振興協会	039-1164	八戸市下長2-2-24 下長第4オフィス2階7号室	0178-51-8868	51-8876
農 協 等	全国農業協同組合連合会 青森県本部	030-0847	青森市東大野2-1-15 青森県農協会館内	017-729-8650	762-1082
	JA全農あおもり畜産酪農部 畜産酪農課牛乳冷却処理所	039-2664	上北郡東北町乙供63-239	0175-63-3551	65-5006
	青森県畜産農業協同組合連合会	039-2567	上北郡七戸町鶴児平72-1	0176-60-1070	60-1073
	ゆうき青森農業協同組合 らくのう営農センター	039-3104	上北郡野辺地町大月平33-1	0175-64-3241	64-3244
	青森県農業共済組合	030-0802	青森市本町5-5-21	017-775-1161	775-1170
	青森県軽種馬生産農業協同組合	039-0814	三戸郡南部町坨渡字鯨ノ口8-13	0178-51-8765	84-2829
そ の 他	公益社団法人あおもり農業 支援センター	030-0801	青森市新町2-4-1 県共同ビル6階	017-773-3131	734-1738
	青森県食肉事業協同組合	030-0113	青森市第二間屋町3-5-25 株式会社いしおか内	017-729-8078	050- 1197-8559
	青森県養蜂協会	030-0822	青森市中央2-1-15 (一社)青森県畜産協会内	017-723-2523	731-1196
	青森シャモロック生産者協会	039-1512	三戸郡五戸町字西ノ沢6-1 株式会社グローバルフィールド内	0178-61-1511	61-1512
	一般社団法人青森県農業会議	030-0802	青森市本町2-6-19 青森県土地改良会館4階	017-774-8580	774-8588

7 畜産関係施設

	名 称	郵便番号	住 所	電話番号	F A X
家畜市場	青 森 県 家 畜 市 場 (青森県畜産農業協同組合連合会)	039-2567	上北郡七戸町鶴児平72-1	0176-60-1070	60-1073
	八 戸 産 地 家 畜 市 場 (八 戸 畜 産 農 業 協 同 組 合)	039-0814	三戸郡南部町坵渡鯨ノ口8-13	0178-84-4448	84-4449
	三 本 木 産 地 家 畜 市 場 (三 本 木 畜 産 農 業 協 同 組 合)	034-0001	十和田市三本木野崎40-433	0176-23-3581	23-5040
	八 戸 サ ラ ブ レ ッ ド 家 畜 市 場 (青森県軽種馬生産農業協同組合)	039-0814	三戸郡南部町坵渡鯨ノ口8-13	0178-51-8765	84-2829
食肉センター	三 沢 市 食 肉 処 理 セ ン タ ー	033-0022	三沢市三沢淋代平116-3101	0176-59-3567	59-2865
	スターゼンミートプロセッサー(株) 青森工場三戸ビーフセンター	039-0122	三戸郡三戸町斗内中堤9-9	0179-25-2233	25-2234
	I H ミ ー ト パ ッ カ ー 株 式 会 社 十 和 田 ミ ー ト プ ラ ン ト	034-0001	十和田市三本木野崎1	0176-23-7321	23-7324
	日 本 フ ー ド パ ッ カ ー 株 式 会 社 青 森 工 場	039-2206	上北郡おいらせ町松原2-132-1	0178-52-3181	52-6855
	A T O 食 肉 セ ン タ ー	038-1141	南津軽郡田舎館村川部富岡1-1	0172-58-4683	55-6726
主な乳業工場	I H ミ ー ト パ ッ カ ー 株 式 会 社 十 和 田 ビ ー フ プ ラ ン ト	034-0041	十和田市相坂六日町山155	0176-58-5232	58-5233
	萩 原 乳 業 株 式 会 社	036-8071	弘前市大久保西田364	0172-32-1451	32-8726
	一 般 財 団 法 人 新 郷 村 ふ る さ と 活 性 化 公 社	039-1801	三戸郡新郷村戸来雨池11-2	0178-78-2511	78-2522
	有 限 会 社 斗 南 丘 牧 場	035-0021	むつ市田名部内田42-606	0175-28-2888	28-2889
	一 般 財 団 法 人 十 和 田 湖 ふ る さ と 活 性 化 公 社	034-0301	十和田市奥瀬堰道39-1	0176-72-3201	72-3204



8 県内の特徴的な動き（令和6年度）

（1）自給飼料の増産と耕畜連携体制の強化に向けた取組

県では、自給飼料増産に向けて、ライムギと青刈りとうもろこしの二毛作栽培や公共牧場における飼料供給体制の実証を行うほか、敷料の安定確保のため、津軽と県南地域におけるもみ殻の広域流通体制の強化に取り組んでいます。



二毛作のほ場（ライムギ）



もみ殻ストックヤードの実証

（2）獣医師確保対策

令和3年3月に改訂した「青森県獣医師職員確保プラン」に基づき、将来にわたり県獣医師職員を安定的に確保するため、協定締結校である北里大学との連携強化を進めるとともに、学生実習・インターンシップの受入や小中高校での出前講座、修学資金の給付などに取り組んでいます。



人材育成に関する協定締結



学生実習の受入

（3）肉用牛生産者との意見交換会の開催

令和6年7月9日に、“若い力で切り拓く牛飼いの挑戦～心一つに全国に誇れる肉用牛生産！～”をテーマに、県内の若手肉用牛生産者9名と知事との県民対話集会（＃あおばな）を開催し、経営の中で力を入れている取組や課題解決のための提案など、本県の今後の肉用牛振興策につながる活発な意見交換が行われました。



参加者の皆さんと



意見交換風景

(4) 畜産業の担い手確保対策

農業高校生を対象にした家畜審査研修会の開催や畜産施設の実地研修、就農希望者等を対象にした畜産インターンシップの実施により、畜産業への理解醸成と体験機会の提供等により畜産業の担い手確保に取り組んでいます。



家畜審査研修会風景



畜産インターンシップ風景



第1久桜

だいいちひさざくら

黒15568 (82.9)

生年月日：平成30年10月13日

産地：上北郡横浜町

繁殖者：古川 亮

令和7年2月
基幹種雄牛指定

父は名牛「安福久」、母「もとくに」は名牛「美国桜」の全きょうだいです。

本牛は、BMS No.・上物率・5等級率において、青森県歴代1位と非常に優れた成績でした。高い脂肪交雑と小ザシ、つくりの良さを兼ね備えた枝肉生産が期待できます。

推奨交配パターン

気高系及び糸桜系の雌牛全般

測定値

体高	148.0
体長	172.0
胸囲	212.0
胸深	81.0
尻長	63.5
かん幅	52.0
体重	693.0



現場検定調査牛 めす(第1久桜×平安平×第2勝王)
枝肉重量 537kg ロース芯 79cm² BMSNo. 12

安福久

(栃木・那須)

黒原4416

安福165の9

(岐阜・高山)

黒原1683

直検1.32

間検0.98 2.6

もとじろう

(栃木・那須)

黒1868119

安福(岐阜)

(兵庫・美方)

しげふじ13の7

(岐阜・高山)

紋次郎

(兵庫・美方)

もとひかり

(島根・出雲)

第1花国

(青森・つが)

黒12510

直検1.36

間検1.03 2.7

もとみつ

(栃木・那須)

黒原1280419

北国7の8

(島根・大田)

あおはな

(島根・安来)

美津福

(兵庫・美方)

もとじろう

(栃木・那須)

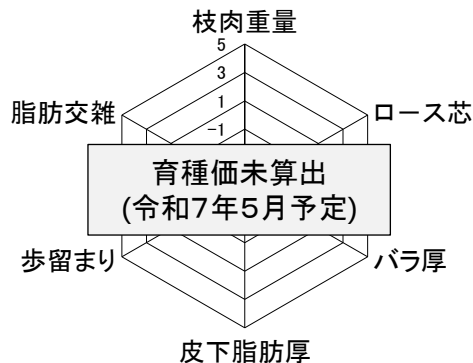
直接検定 1.00

現場検定(平均 n=14)

BMS 9.9 枝重 447.3kg

現場後代検定成績

項目	去勢	めす
頭数	6頭	8頭
枝肉重量	447.1kg	447.5kg
ロース芯	55.3cm ²	70.3cm ²
脂肪交雑	9.0	10.5
上物率	100%	100%
5等級率	66.7%	100%



亀花邦

かめはなくに

黒15619 (84. 7)

生年月日：平成30年11月14日

産地：上北郡六戸町

繁殖者：小野寺 邦男



令和6年3月
基幹種雄牛指定

父は「第1花国」で、糸桜系の遺伝子保有率が高いことから、多様な繁殖雌牛に交配可能です。

本牛は、発育や体積に優れ、母「みゆり」は分娩間隔等の繁殖能力にも優れていることから、産子の種牛性の改良にも期待できます。

推奨交配パターン
兵庫系及び気高系の雌牛全般

測定値	
体高	152.0
体長	170.0
胸囲	220.0
胸深	79.0
尻長	68.0
かん幅	58.0
体重	750.0

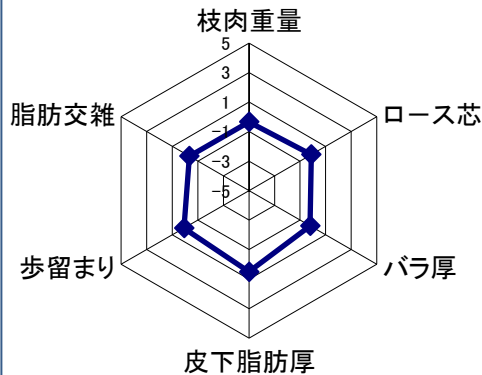


現場検定調査牛 去勢(亀花邦×優福栄×第5隼福)
枝肉重量 486kg ロース芯71cm² BMSNo. 10

第1花国 (青森・つが) 黒12510 直検1.36 間検1.03 2.7	北国7の8 (島根・大田) 黒原1530 直検1.30 間検0.94 2.7 あおはな (島根・安来) 黒1884989	第7糸桜 (島根・仁多) きたぐに7 (島根・大田) 花桜 (島根・飯石) 第2あおひろ (島根・能義)
みゆり (鹿兒・鹿屋) 黒原1733249	喜亀忠 (鹿兒・霧島) 黒原5136 直検1.30 ももこ (鹿兒・鹿屋) 黒原1657393	忠茂勝 (鹿兒・始良) かめてる (鹿兒・霧島) 華春福 (鹿兒・鹿屋) ひさこ (鹿兒・鹿屋)

直接検定 1.24
現場検定(平均 n=16)
BMS 7.2 枝重 457.7kg

	育種価	ランク	正確度
枝肉重量	42.336	C	0.880
ロース芯	15.033	C	0.880
バラ厚	0.872	C	0.860
皮下脂肪	-0.621	B	0.884
推定歩留	2.576	B	0.889
脂肪交雑	2.083	C	0.890



令和6年10月第59回育種価評価から

寿優福

としゅうふく

黒原 6 1 6 7 (83. 3)

生年月日：平成28年7月4日

産 地：十和田市

繁殖者：沢目 寿弘



令和4年3月
基幹種雄牛指定

父「優福栄」、2代祖「第1花国」と青森県の名牛を2代重ねて交配して造成された種雄牛です。

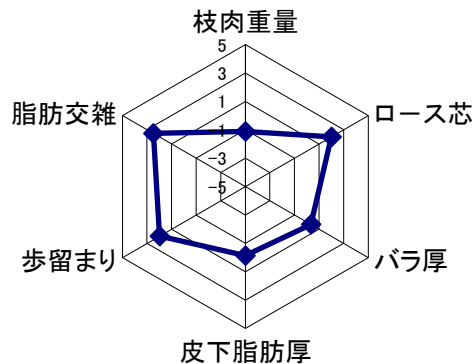
母「なな」は枝肉共進会の名誉賞を輩出した高能力牛であり、脂肪交雑能力だけでなく、ロース芯面積などの改良も大いに期待できます。

推奨交配パターン
気高系の雌牛全般
「安福久」等の兵庫系の雌牛

測定値	
体高	154.0
体長	182.0
胸囲	218.0
胸深	80.0
尻長	63.0
かん幅	52.0
体重	780.0

直接検定 1.20
現場検定(平均 n=18)
BMS 9.6 枝重 479.2kg

	育種価	ランク	正確度
枝肉重量	22.653	C	0.910
ロース芯	27.995	S	0.907
バラ厚	1.068	B	0.893
皮下脂肪	-0.397	C	0.913
推定歩留	4.547	H	0.917
脂肪交雑	3.659	S	0.919



令和6年10月第59回育種価評価から



(有)金子ファーム提供

現場検定調査牛 めす(寿優福×百合茂×安福久)
枝肉重量 471kg ロース芯83cm² BMSNo. 12

県外販売可

幸紀花

さきはな

黒15401 (84. 1)

生年月日：平成28年3月22日

産地：上北郡横浜町

繁殖者：斗米 晃二



令和4年3月
基幹種雄牛指定

幸紀雄

(鹿兒・曾於)

黒原5297

百合茂

(鹿兒・薩摩)

黒原4086

直検1.54

現検H14

はつかね

(鹿兒・曾於)

黒2092633

平茂勝

(鹿兒・薩摩)

しらゆり

(鹿兒・薩摩)

金幸

(鹿兒・曾於)

やすこ

(鹿兒・曾於)

第1花国

(青森・つが)

黒12510

直検1.36

間検1.03 2.7

北国7の8

(島根・大田)

あおはな

(島根・安来)

美津福

(兵庫・美方)

もとじろう

(栃木・那須)

もとくに

(栃木・那須)

黒原1443702

もとみつ

(栃木・那須)

黒原1280419

直接検定 1.25
現場検定(平均 n=16)
BMS 8.3 枝重 476.6kg

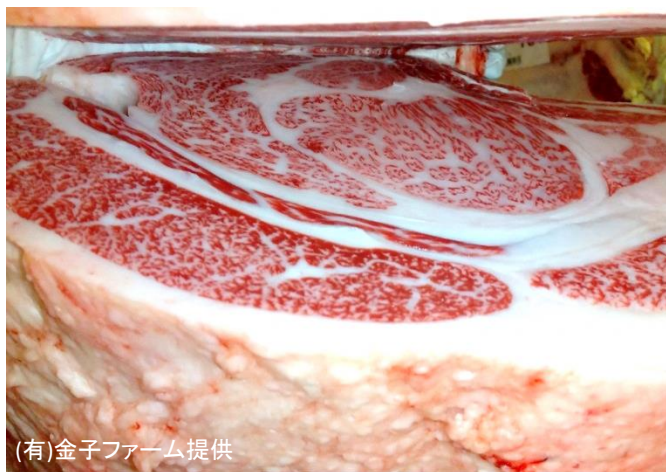
父は気高系の「幸紀雄」、母「もとくに」は名牛「美国桜」の全きょうだいで母系「もとじろう」系の種雄牛です。「もとじろう」系種雄牛らしく、体幅が充実しており、特にめす産子の平均BMSが10.2と優れています。

推奨交配パターン

「安福久」等の兵庫系の雌牛
及び「勝忠平」系の気高系雌牛

測定値

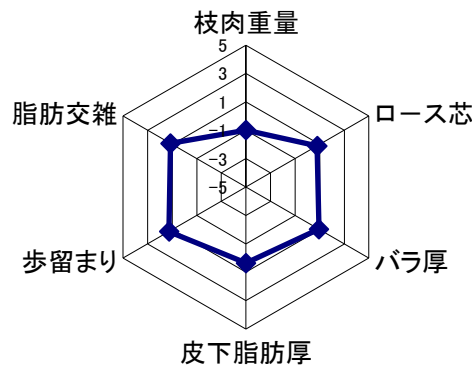
体高	148.0
体長	176.0
胸囲	226.0
胸深	81.0
尻長	60.0
かん幅	53.0
体重	820.0



(有)金子ファーム提供

現場検定調査牛 めす(幸紀花×聖香藤×勝忠平)
枝肉重量 515kg ロース芯 93cm² BMSNo. 11

	育種価	ランク	正確度
枝肉重量	26.054	C	0.895
ロース芯	20.591	A	0.893
バラ厚	1.274	H	0.877
皮下脂肪	-0.571	B	0.899
推定歩留	3.807	H	0.903
脂肪交雑	2.910	H	0.906



令和6年10月第59回育種価評価から

忠光安

ただみつやす

黒原6073 (84. 8)

生年月日：平成27年8月10日

産地：三戸郡三戸町

繁殖者：野中 耕進



令和3年3月
基幹種雄牛指定

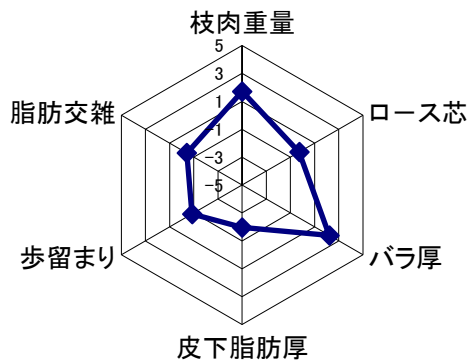
父は気高系の名牛「勝忠平」、2代祖は岐阜全共で最優秀賞を受賞した「光平福」と、気高系種雄牛を重ねて交配した種雄牛です。気高系の遺伝子保有割合が高いので、適正交配の対象雌牛が多いのも特徴的です。

推奨交配パターン
「第1花園」等の糸桜系雌牛
及び兵庫系雌牛全般

測定値	
体高	153.0
体長	188.0
胸囲	236.0
胸深	84.0
尻長	65.0
かん幅	57.0
体重	860.0

直接検定 1.15
現場検定(平均 n=19)
BMS 7.3 枝重 482.0kg

	育種価	ランク	正確度
枝肉重量	94.748	H	0.939
ロース芯	14.111	C	0.938
バラ厚	1.719	S	0.927
皮下脂肪	0.245	D	0.942
推定歩留	1.602	C	0.944
脂肪交雑	2.031	C	0.946



令和6年10月第59回育種価評価から



現場検定調査牛 去勢(忠光安×寿恵福×糸安茂)
枝肉重量 581kg ロース芯 68cm² BMSNo. 9

広 清

ひろきよ

黒原 5907 (82. 1)

生年月日：平成25年4月2日

産 地：十和田市

繁 殖 者：畑山 廣志



平成31年2月
基幹種雄牛指定

白清85の3

(岐阜・高山)

黒原4009

直検1.13

現検H14

飛驒白清

(岐阜・飛驒)

黒原2640

間検0.80 3.6

やす19の3

(岐阜・高山)

黒原957178

安平

(宮崎・宮崎)

黒原2208

直検1.24

間検0.95 3.0

なおみ2

(宮崎・小林)

黒原1334672

ちざくら

(宮崎・小林)

黒原880981

安福(岐阜)

(兵庫・美方)

第8はくさん

(岐阜・飛驒)

安福(岐阜)

(兵庫・美方)

やす165の14

(岐阜・高山)

安福(宮崎)

(兵庫・美方)

きよふく

(岐阜・高山)

隆桜

(宮崎・児湯)

いとし6

(島根・仁多)

父「白清85の3」、2代祖「安平」と兵庫系の代表種雄牛を重ねて交配した種雄牛です。

第12回鹿児島全共第8区で、優等賞第8席を受賞し、特別賞「脂肪の質と形状賞」を獲得しました。

推奨交配パターン

「第1花国」等の糸桜系雌牛
及び気高系の雌牛全般

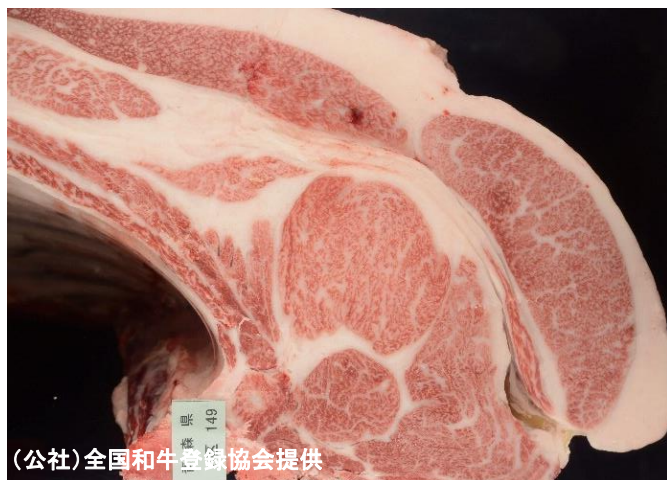
測定値

体高	153.0
体長	182.0
胸囲	223.0
胸深	81.0
尻長	63.0
かん幅	54.0
体重	798.0

直接検定 0.99

現場検定(平均 n=15)

BMS 7.7 枝重 468.5kg



(公社)全国和牛登録協会提供

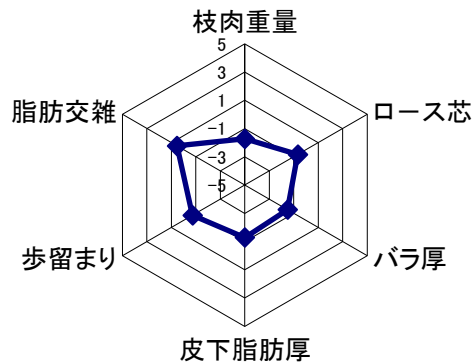
第12回鹿児島全共第8区(令和4年10月8日)

優等賞第8席 特別賞「脂肪の質と形状賞」

去勢(広清×安福久×平茂勝) 枝肉重量 478.1kg、

ロース芯面積67cm²、BMSNo.12

	育種価	ランク	正確度
枝肉重量	7.134	D	0.984
ロース芯	11.634	C	0.984
バラ厚	0.426	D	0.981
皮下脂肪	0.007	C	0.985
推定歩留	1.737	C	0.986
脂肪交雑	2.574	B	0.986



令和6年10月第59回育種価評価から

優福栄

ゆうふくさかえ



平成24年3月
基幹種雄牛指定

「第1花国」娘牛との交配を意識して作出した三代兵庫系の種雄牛です。安定した上物率から本県の兵庫系のエースとして活躍しましたが、すでに本牛は死亡しているため、現在は「寿優福」が後継種雄牛として基幹種雄牛に指定されています。

推奨交配パターン

(肥育用)「第1花国」の娘牛
(種牛用) 兵庫及び気高系雌牛

測定値	
体高	149.0
体長	171.6
胸囲	215.0
胸深	79.0
尻長	63.0
かん幅	51.0
体重	699.0



(株)肉牛新報社「肉牛ジャーナル」提供

第13回JAみやぎ登米「仙台牛」枝肉共進会(平成28年2月10日)
チャンピオン賞 去勢(優福栄×安福久×福華1)528kg 112cm² BMS12

黒14419 (81.9)

生年月日: 平成18年12月17日

産地: 三戸郡田子町

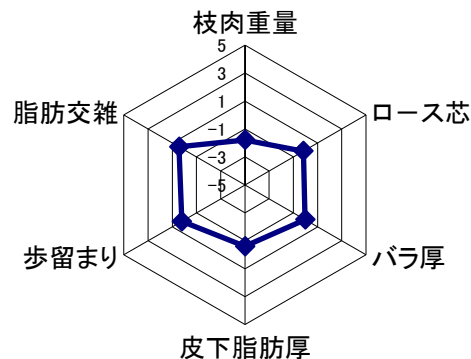
繁殖者: 青森県産業技術センター

畜産研究所和牛改良資源部

福栄 (鳥取・鳥取) 黒原2886 直検1.31 間検0.92 2.6	安福(岐阜) (兵庫・美方) 黒原930 間検0.83 4.1 はるみ (兵庫・美方) 黒原649705	安谷土井 (兵庫・美方) ちずる (兵庫・美方) 菊照土井 (兵庫・美方) てつや (兵庫・美方) 菊安土井 (兵庫・美方) すずよし (兵庫・美方) 金福 (兵庫・美方) 第2さわはた3 (青森・下北)
さわゆう (青森・下北) 黒原933908	第2さわふく (青森・下北) 黒1827582	

直接検定 1.07
現場検定(平均 n=23)
BMS 6.7 枝重 447kg

	育種価	ランク	正確度
枝肉重量	5.740	D	0.994
ロース芯	14.706	C	0.994
バラ厚	0.939	C	0.993
皮下脂肪	-0.232	C	0.995
推定歩留	2.716	B	0.995
脂肪交雑	2.515	B	0.995



令和6年10月第59回育種価評価から

第1花国

だいいちはなくに

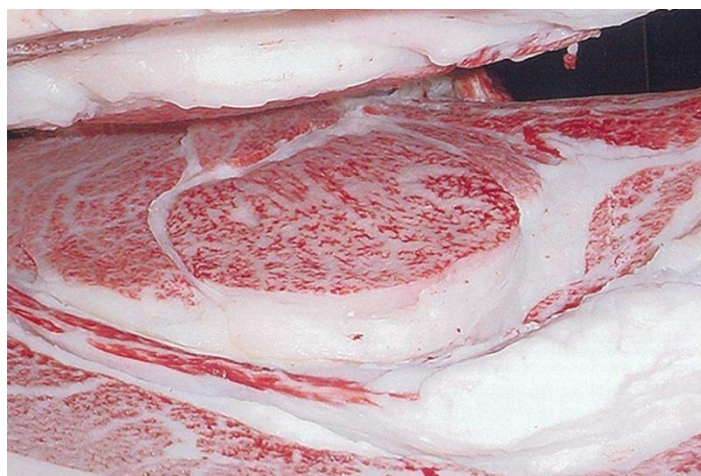


青森県を代表する質量兼備の種雄牛であり、本牛の産肉能力の高さは、全国規模の枝肉共例会での数々の受賞により証明済みです。

最近「安福久」の娘牛との相性の良さのほか、2代祖や3代祖としても能力を発揮しています。

推奨交配パターン 兵庫系及び気高系の雌牛全般

測定値	
体高	153.5
体長	188.6
胸囲	221.0
胸深	84.5
尻長	62.5
かん幅	52.5
体重	826.0



第5回全農枝肉共励会名誉賞(平成15年7月11日)
去勢(第1花国×安福165の9×恒徳) 506kg BMS12

黒12510(82.8)

生年月日:平成5年5月28日

産地:青森県つがる市

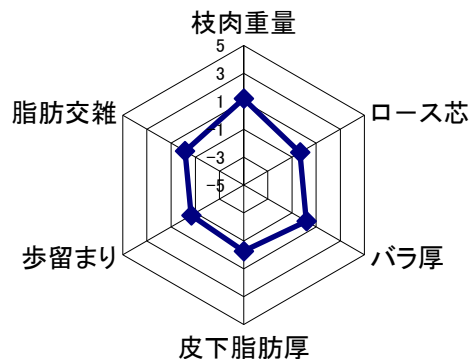
繁殖者:青森県産業技術センター

畜産研究所和牛改良技術部

北国7の8 (島根・大田) 黒原1530 直検1.30 間検0.94 2.7	第7糸桜 (島根・仁多) 黒原65 直検1.38 間検1.02 3.4 きたぐに7 (島根・大田) 黒原81009	第14茂 (岡山・苫田) 第9いとざくら (島根・仁多) 晴美 (島根・八頭) もりなか (島根・大田)
あおはな (島根・能義) 黒1884989	花桜 (島根・飯石) 黒原1637 直検1.21 間検0.87 2.6 第2あおひろ (島根・能義) 黒原601491	糸花 (島根・飯石) 第5いとしげ (島根・飯石) 糸光 ◆ (島根・飯石) あおひろ (島根・能義)

直接検定	1.36	
間接検定	1.03	2.7
H8	43	72.8

	育種価	ランク	正確度
枝肉重量	81.563	H	0.996
ロース芯	13.729	C	0.996
バラ厚	1.014	B	0.996
皮下脂肪	-0.351	C	0.996
推定歩留	1.800	C	0.997
脂肪交雑	2.187	C	0.997



令和6年10月第59回育種価評価から

県基幹種雄牛の指定状況

区分	指定年月	名 号	生年月日	産地	父	母の父
1	H10. 3	雪国	H 4. 2. 10	兵庫県	菊安土井	安谷土井
2	H11. 8	第 1 花国	H 5. 5. 28	つがる市	北国 7 の 8	花桜
3	H11. 8	福安	H 2. 12. 10	十和田市	安福 1 6 5 の 9	紋次郎
4	H13. 2	照神 1 2	H 6. 3. 21	兵庫県	谷福土井	安美土井
5	H15. 2	国栄 9 7	H 9. 10. 30	横浜町	北国7の8	丸優
6	H20. 3	第 2 花国	H14. 8. 18	つがる市	第 1 花国	北国 7 の 8
7	H24. 3	優福栄	H18. 12. 17	田子町	福栄	丸優
8	H25. 2	光茂	H19. 8. 15	十和田市	平茂勝	北国 7 の 8
9	H26. 11	平安平	H21. 5. 22	三戸町	安平	平茂勝
10	H30. 2	春待白清	H24. 11. 27	十和田市	白清 8 5 の 3	安平
11	H31. 2	広清	H25. 4. 2	十和田市	白清 8 5 の 3	安平
12	R 3. 3	忠光安	H27. 8. 10	三戸町	勝忠平	光平福
13	R 4. 3	幸紀花	H28. 3. 22	横浜町	幸紀雄	第 1 花国
14	R 4. 3	寿優福	H28. 7. 4	十和田市	優福栄	第 1 花国
15	R 6. 3	亀花邦	H30. 11. 14	六戸町	第 1 花国	喜亀忠
16	R 7. 2	第 1 久桜	H30. 10. 13	横浜町	安福久	第 1 花国



ライムギ



編集・発行
青森県農林水産部畜産課